

2025年度第2四半期決算説明会

2025年11月17日

石原産業(株)

URL <https://www.iskweb.co.jp>

<お問い合わせ先>

常務執行役員

財務本部長 潮見 統一郎

1. トピックス

2. 2025年度 第2四半期実績

3. 2025年度 業績予想

4. 事業別 業績概要

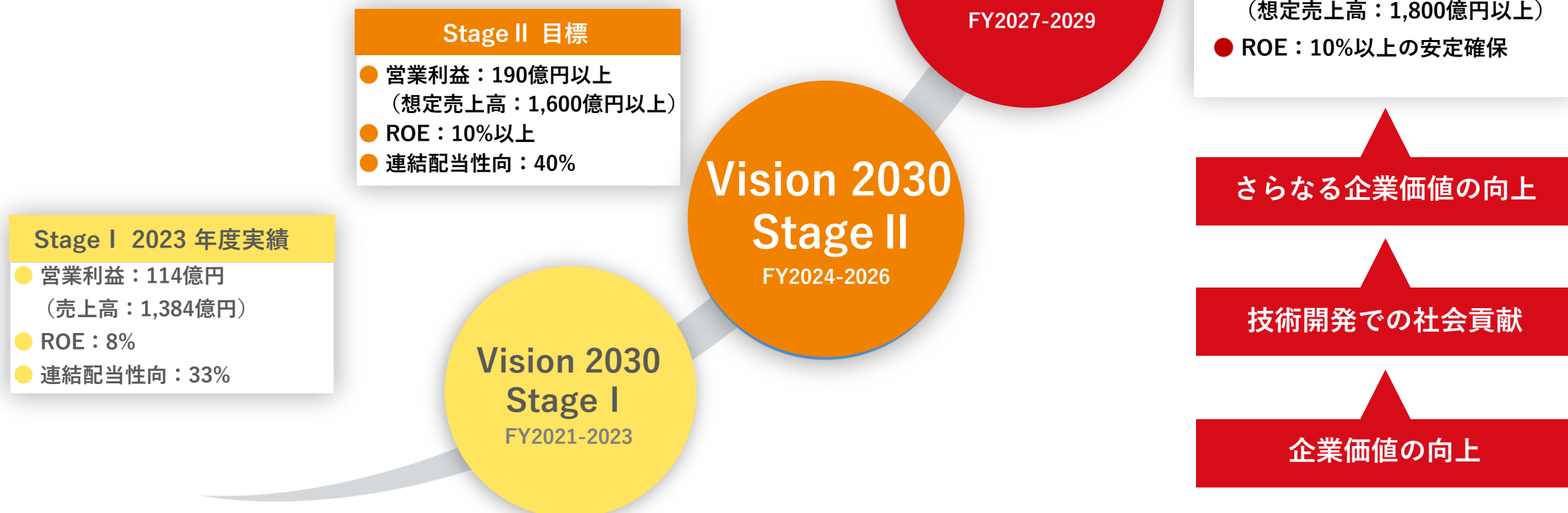
5. 付属資料

社長ごあいさつ

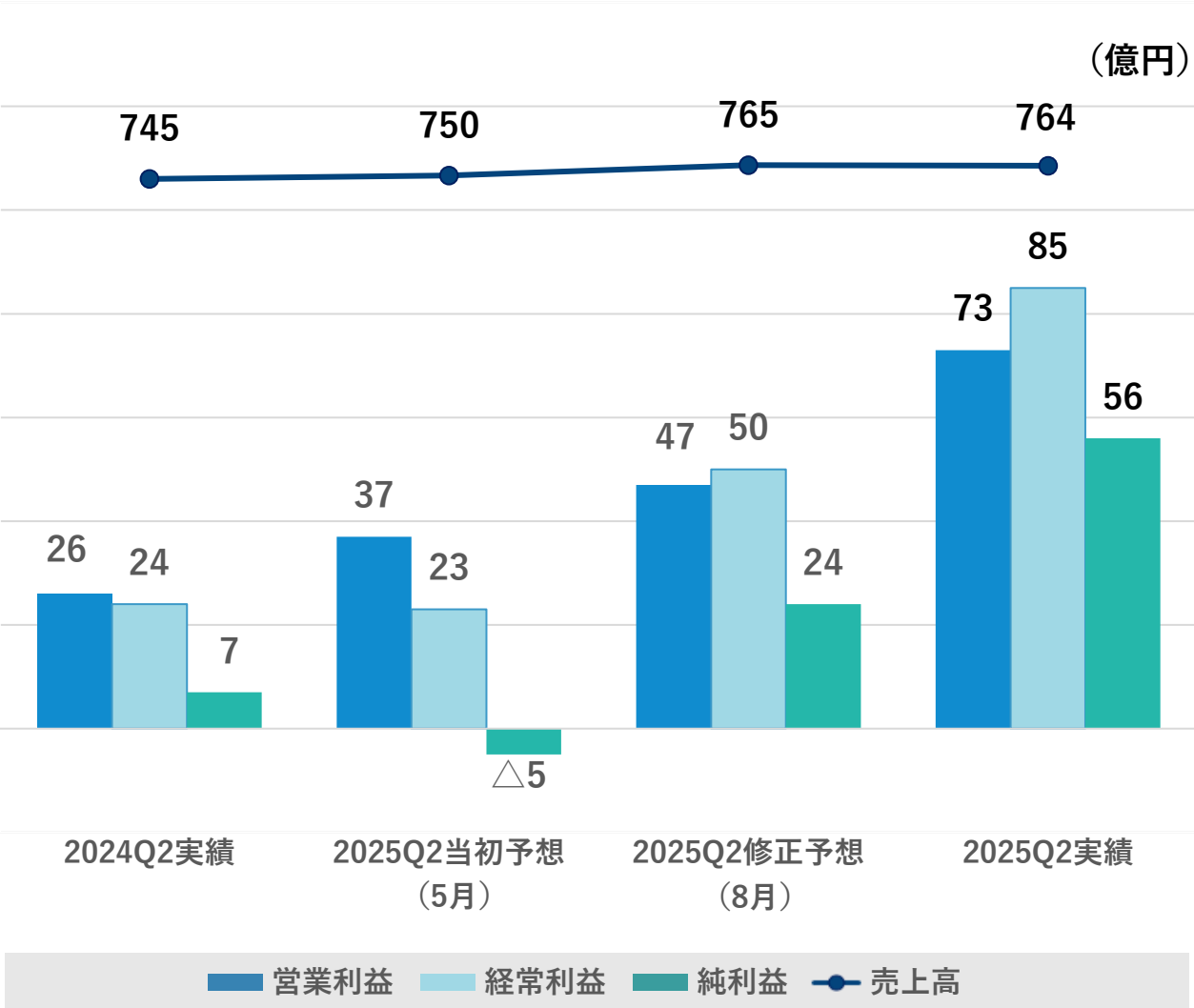
代表取締役社長 大久保 浩

Vision 2030 目標実現への道程

独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。



2025年度 第2四半期連結業績



● 売上高 **764 億円**
(前年同期比 19 億円増)

■ 営業利益 **73 億円**
(前年同期比 47 億円増)

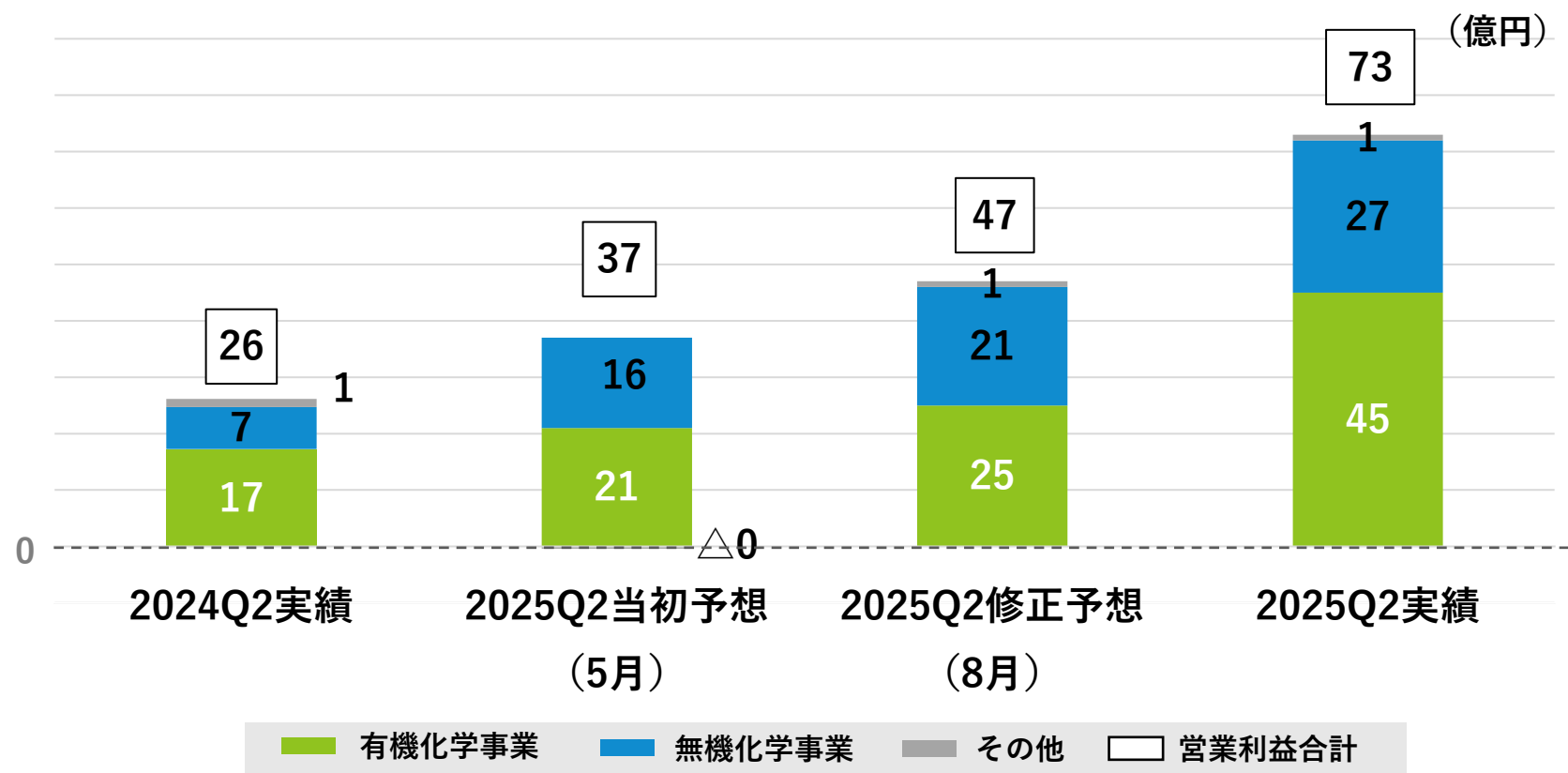
■ 経常利益 **85 億円**
(前年同期比 60 億円増)

■ 純利益 **56 億円**
(前年同期比 49 億円増)

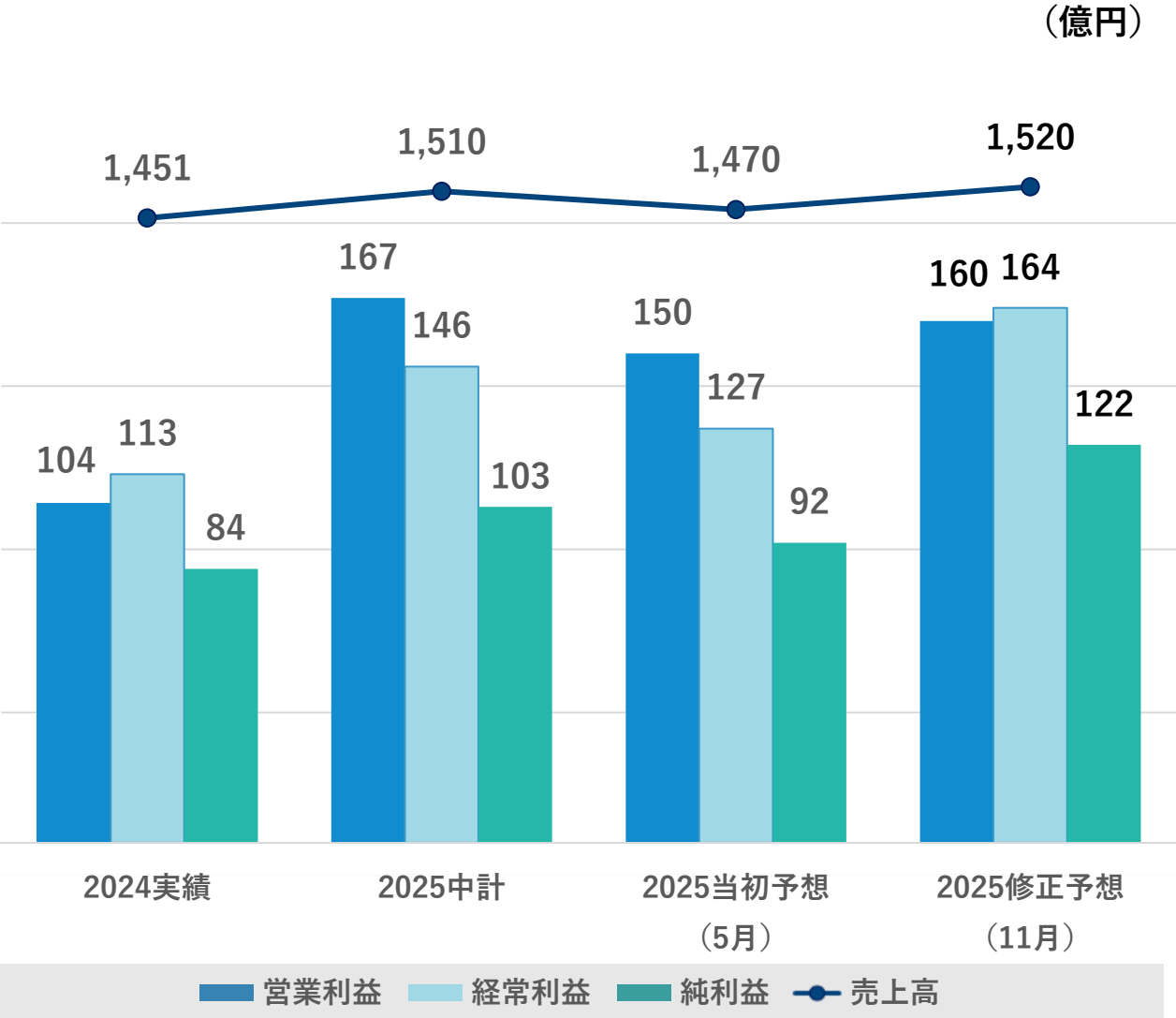
為替レート	(円/USD)	(円/EUR)
2024Q2実績	152.4	166.1
2025Q2当初予想	140.0	160.0
2025Q2修正予想	145.3	165.0
2025Q2実績	146.1	168.2

2025年度 第2四半期事業別営業利益

- ◆有機化学事業は、農薬において海外販売が総じて好調に推移したことなどにより増益。
- ◆無機化学事業は、電子材料の販売は堅調に推移。汎用酸化チタン販売が総じて厳しい状況となるも、販売価格の維持とコスト削減などにより増益。



2025年度 通期連結業績予想

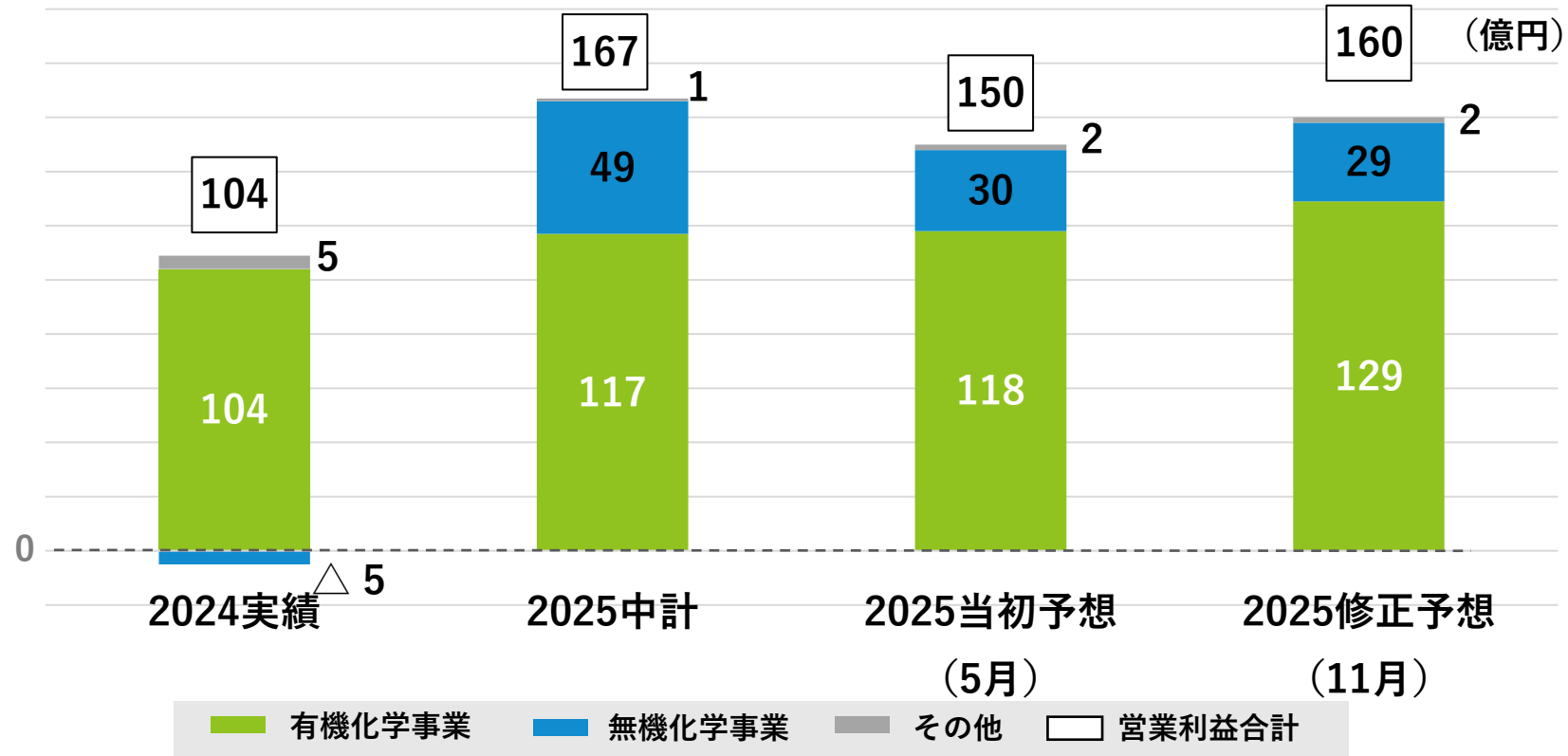


◆ 5月の当初予想と比較して、有機化学事業の農薬が海外の好調な販売が見込まれ、為替も米ドル、ユーロとも想定よりも円安に推移することが見込まれることから、増収、増益の見通し。

為替レート	(円/USD)	(円/EUR)
2024実績	152.4	162.8
2025中計	140.0	150.0
2025当初予想	140.0	160.0
2025修正予想	147.0	169.1

2025年度 通期業績予想事業別営業利益

- ◆有機化学事業は、農薬は欧州で殺菌剤と殺虫剤、米州で殺虫剤の販売が好調に推移し、販管費の増加を吸収する見通し。ヘルスケアの黒字化は来期に繰り越しの見通し。
- ◆無機化学事業は、ファインケミカル（酸化チタン）は国内外での需要減と競合他社との競争が続くも、電子材料向けの販売が堅調であることや低品位鉱石の使いこなし等により、ほぼ当初予想並みの営業利益を確保する見通し。



株主還元方針

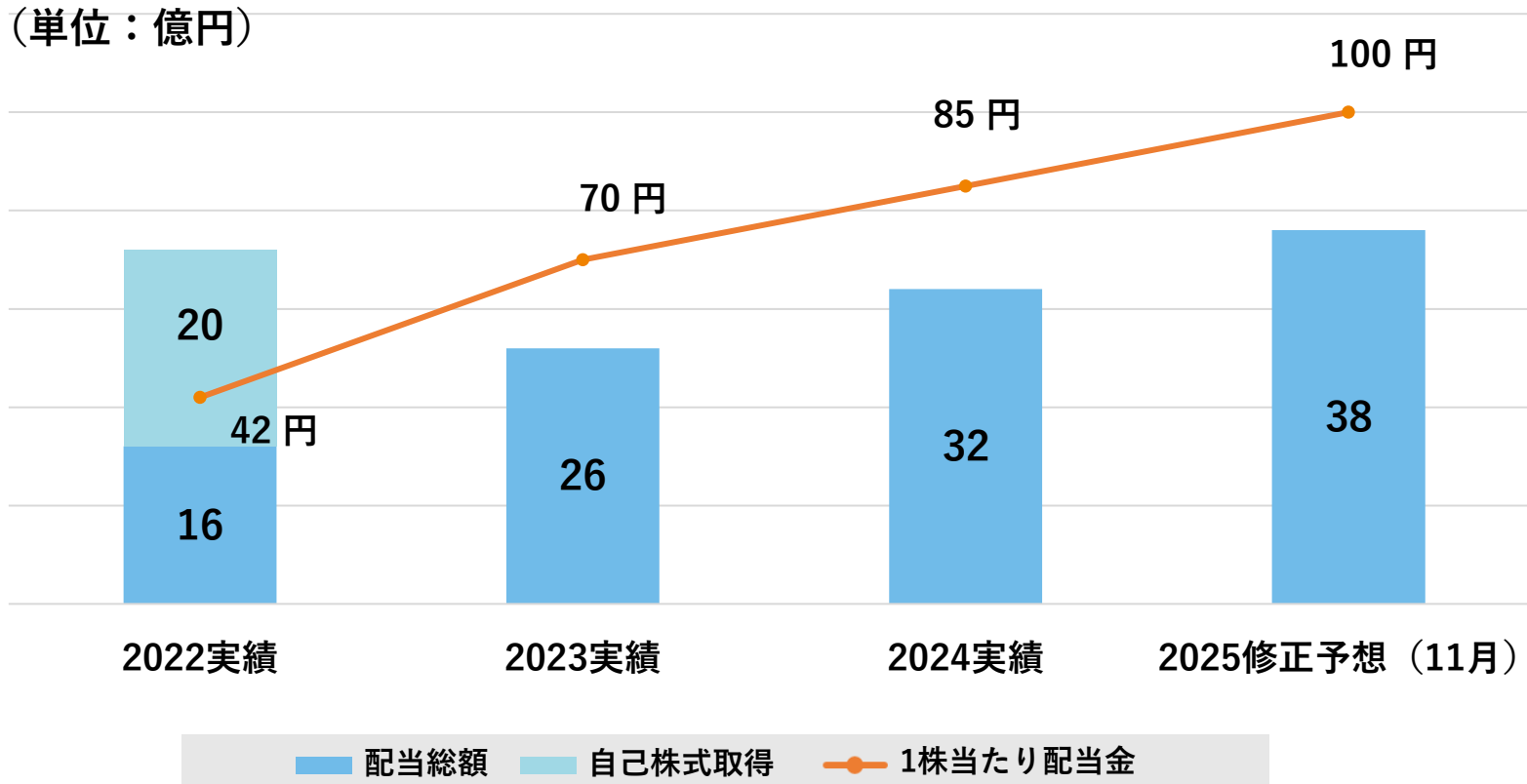
◆2025年2月に株主還元方針を変更し、

DOE（連結株主資本配当率）3%の下限配当実施※を発表

※対象期間は中期経営計画「Vision 2030 Stage II」（2024～2026年度）

◆2025年度配当予想で、中間配当を決定（1株当たり30円）

（単位：億円）



株主還元方針

- 企業価値を高めるとともに、株主のみなさまへ利益を還元していくことを経営の最重要政策の一つと位置付けています。
- 配当は、業績動向、財務状況、将来の事業展開に必要な内部留保の充実等を総合的に勘案して業績に応じた安定的な配当の継続を基本に考えています。
- 機動的に自己株式取得も行います。
- 中期経営計画「Vision 2030 Stage II」では、最終年度（2026年度）に向けて連結配当性向40%を目標とします。
- 中期経営計画「Vision 2030 Stage II」（2024～2026年度）の間中は、DOE（連結株主資本配当率）3%を下限として配当を実施します。

PBR1倍以上に向けた取り組み

◆収益力向上に向けた取り組み 「すべての事業を収益の柱へ」

農薬/成長戦略剤の拡販、コスト低減のためのひょうご小野研究センターが稼働
動物用医薬品/パノクエルの国内外での拡販
無機化学事業構造改革の実行

◆株主還元の強化

DOE（連結株主資本配当率）3%以上

◆ROIC経営推進

「資本コスト経営推進プロジェクト」の推進

	2025年5月19日 (前回決算説明会開催日)	2025年11月6日 (2025年Q2決算発表日)
株価（円）	1,739円	2,587円
時価総額（億円）	665億円	989億円
株価純資産倍率（PBR）	0.6倍	0.8倍

2025年度 第2四半期実績

為替レート	2024 第2四半期	2025 第2四半期
(円/USD)	152.4	146.1
(円/EUR)	166.1	168.2

2025年度 第2四半期実績

- ◆前期と比較して、農薬は米州で殺虫剤と除草剤、アジアで殺虫剤の販売が好調で営業利益は増加。
- ◆加えて、前期の為替差損から当期は為替差益となり、経常利益、中間純利益も増加。

(億円)

	2024 第2四半期	2025 第2四半期	増減	2025 第2四半期予想 (2025年8月)	増減
売上高	745	764	19	765	△0
営業利益	26	73	47	47	26
経常利益	24	85	60	50	35
純利益	7	56	49	24	32

2025年度 第2四半期（事業別売上高・営業利益）

<有機化学事業>

- ◆ 農薬は欧州で殺菌剤の販売好調に加え、害虫発生増により殺虫剤の需要が増加し、販売が伸長。米国では除草剤が小麦用途を中心に伸長。アジアでは殺虫剤販売が堅調に推移。
- ◆ 動物用医薬品などのヘルスケア事業は前期を上回る売上高となった。

<無機化学事業>

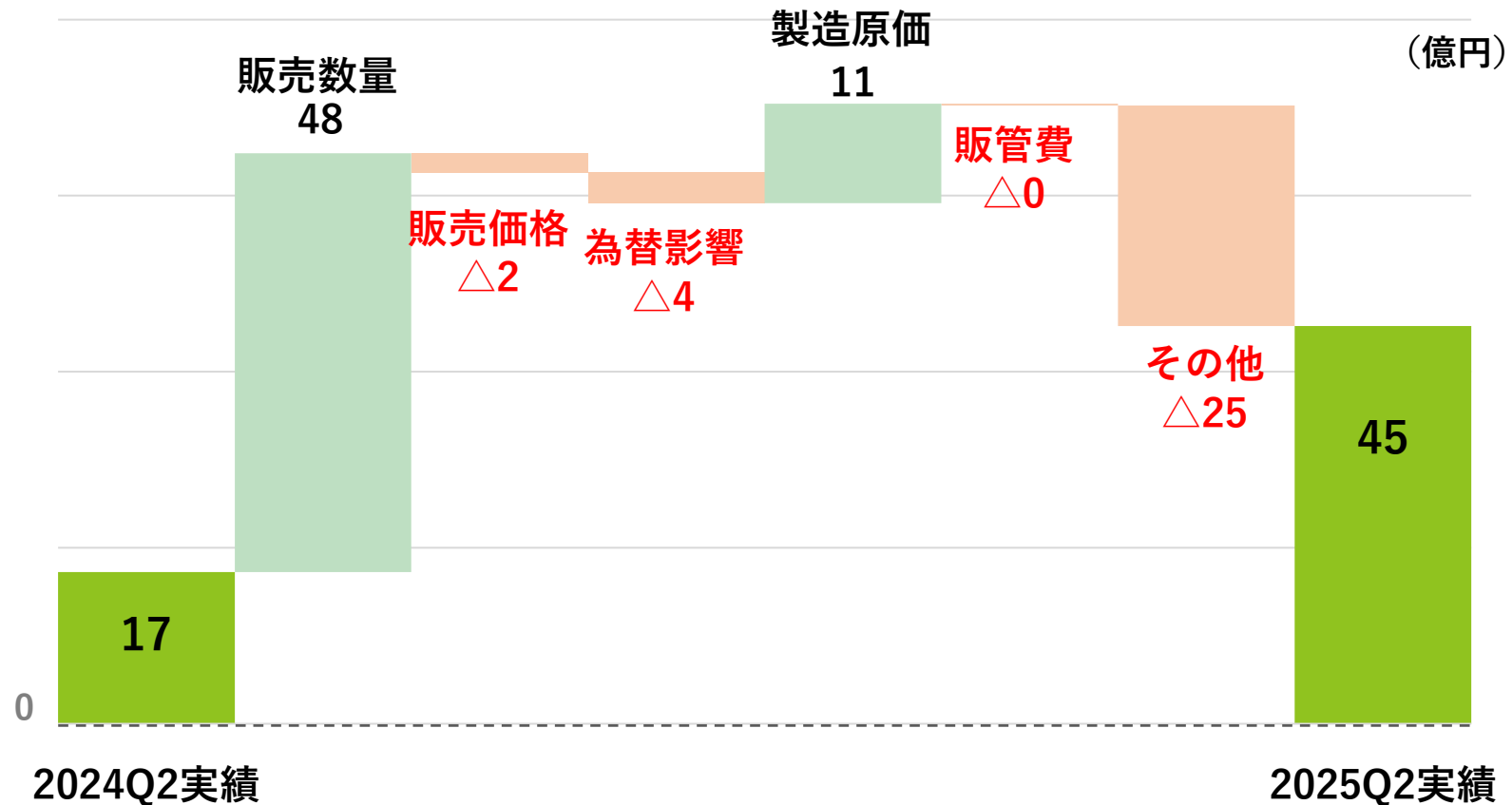
- ◆ 電子材料は国内販売が堅調。海外向けも一定の販売を確保。
- ◆ 機能性色材は、化粧品用途の販売が堅調。
- ◆ ファインケミカルは、酸化チタン販売は総じて厳しい状況となったが、販売価格の維持と製造コストの削減などの取り組みを推進。

（億円）

		2024 第2四半期	2025 第2四半期	増減
有機化学事業	売上高	362	415	52
	営業利益	17	45	27
無機化学事業	売上高	360	330	△30
	営業利益	7	27	19
その他	売上高	22	19	△2
	営業利益	1	1	△0
合計	売上高	745	764	19
	営業利益	26	73	47

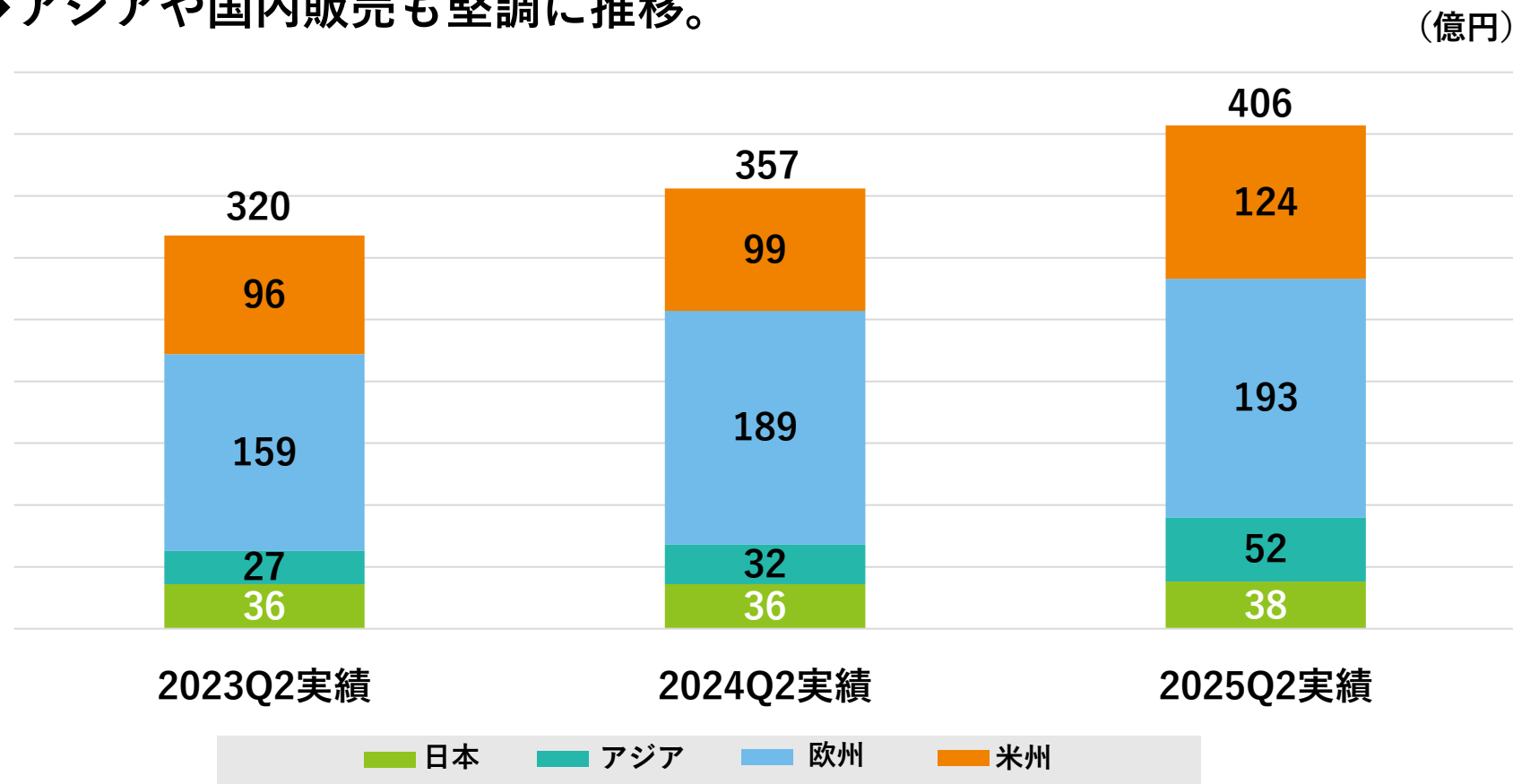
有機化学事業 営業利益増減要因

◆米州で殺虫剤、除草剤の販売が好調に推移。アジアでは殺虫剤の販売が好調に推移。加えて、製造コスト改善が寄与し増益。



農薬 地域別販売実績

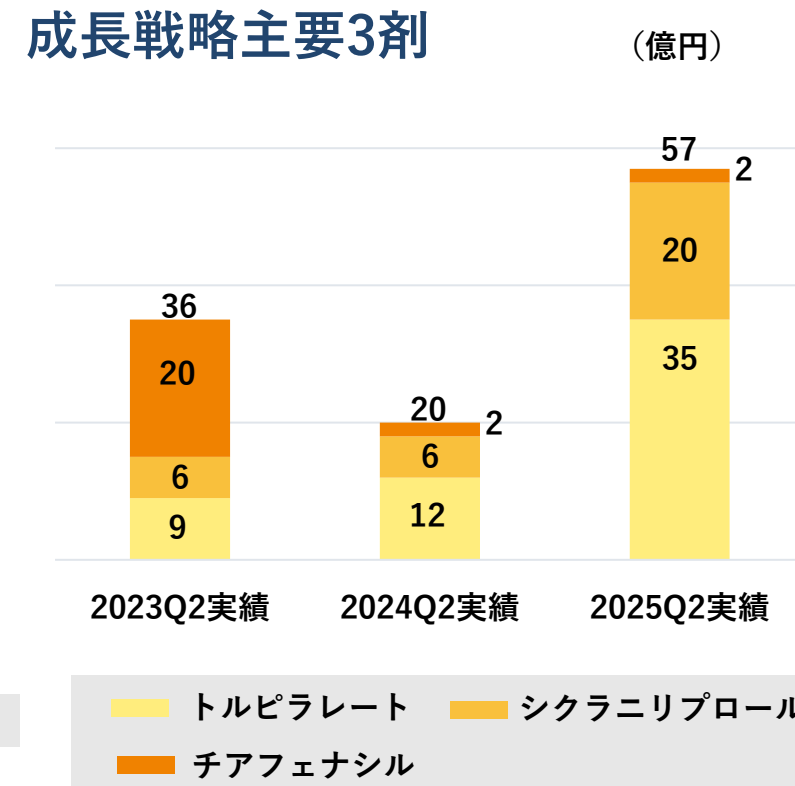
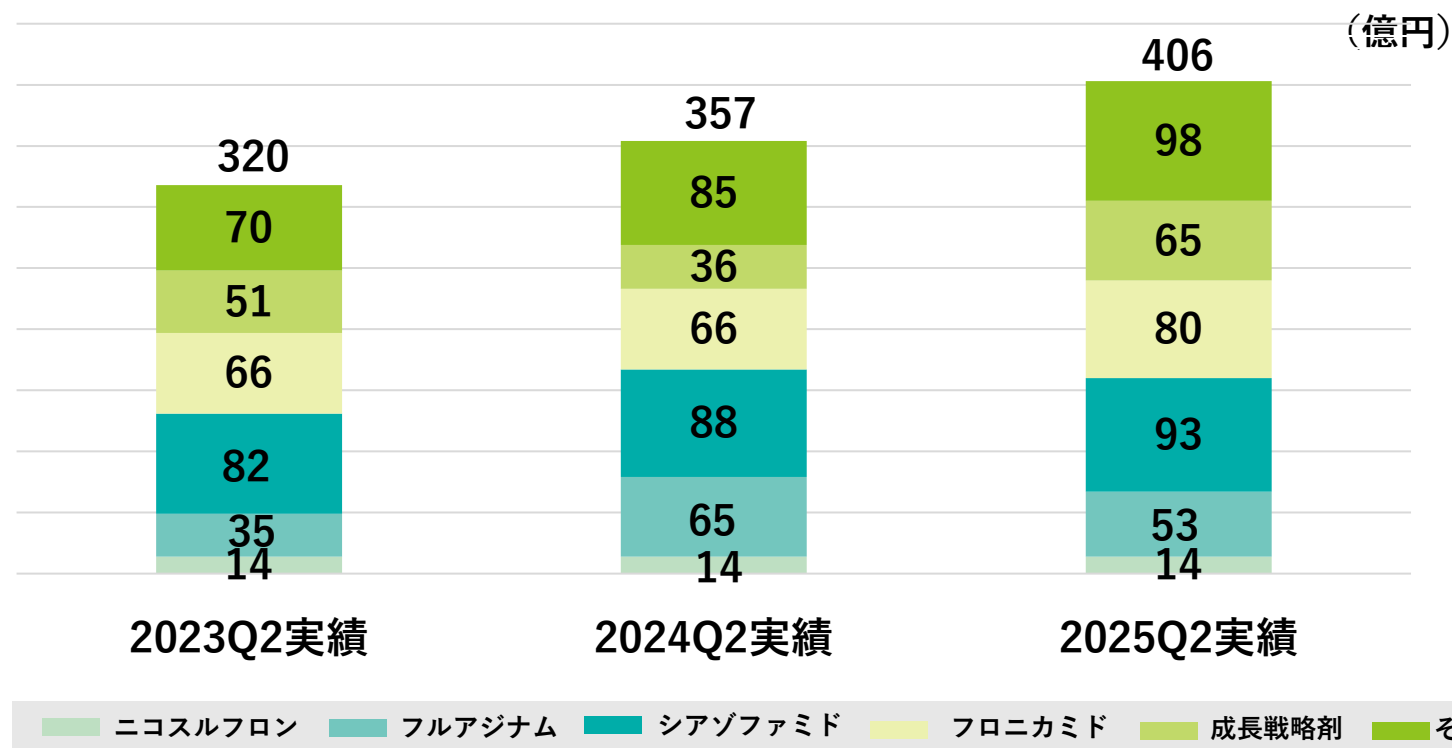
- ◆欧州は前年に引き続き、殺菌剤、殺虫剤の販売が好調。
- ◆米州はブラジルでジェネリック品と厳しい競争が続くも、北米で殺虫剤、除草剤の販売が好調。
- ◆アジアや国内販売も堅調に推移。



※アジアには大洋州を含む。

農薬 剤別販売実績

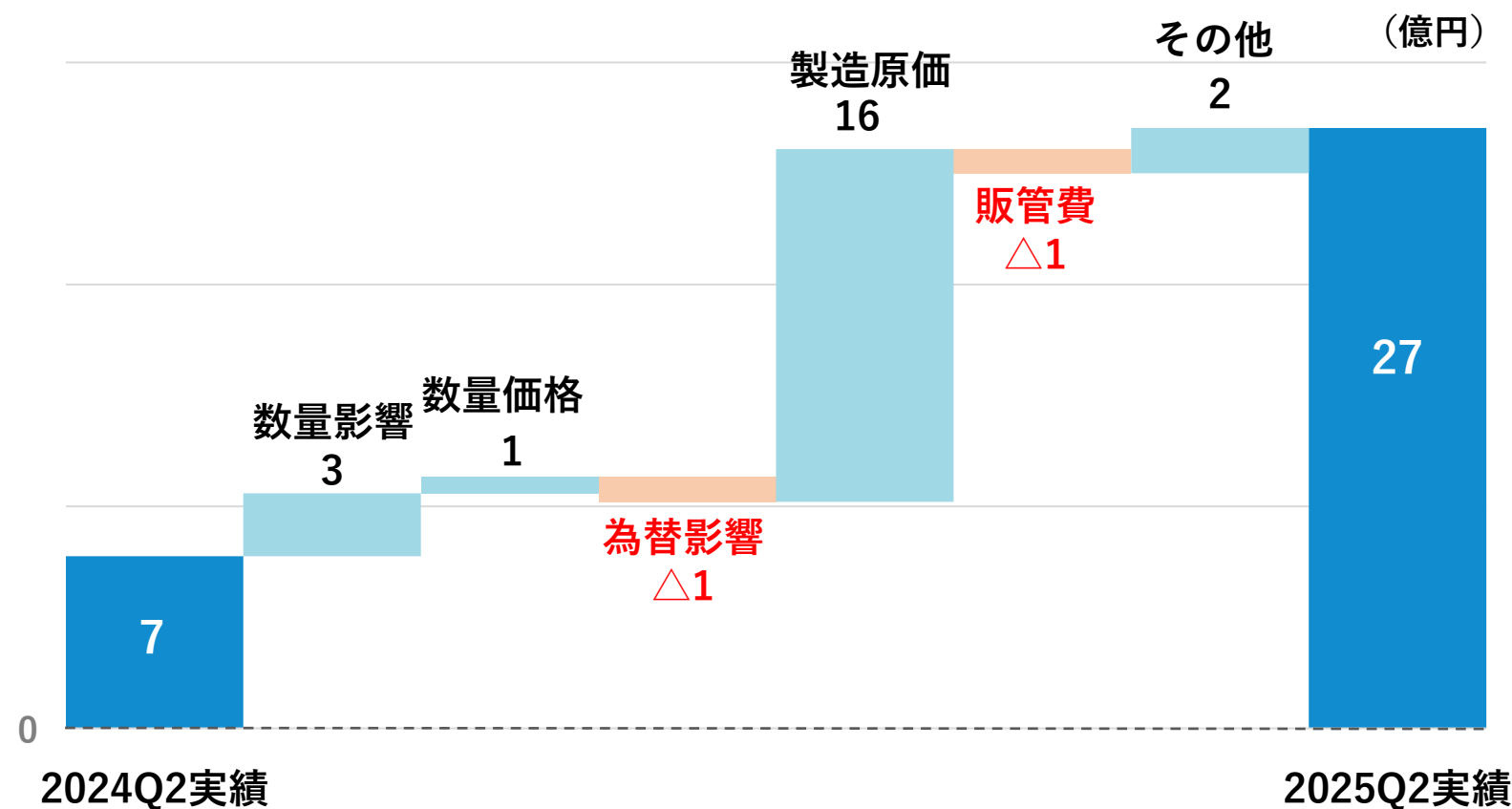
- ◆殺菌剤フルアジナムはブラジル向けでジェネリック品と競争が厳しく販売減。
- ◆殺虫剤フロニカミドは北米向けで販売が好調。
- ◆成長戦略主要3剤は除草剤トルピラレートが北米で小麦用途で販売伸長。殺虫剤シクラニリプロールがインドで販売増。



無機化学事業 営業利益増減要因

無機化学事業

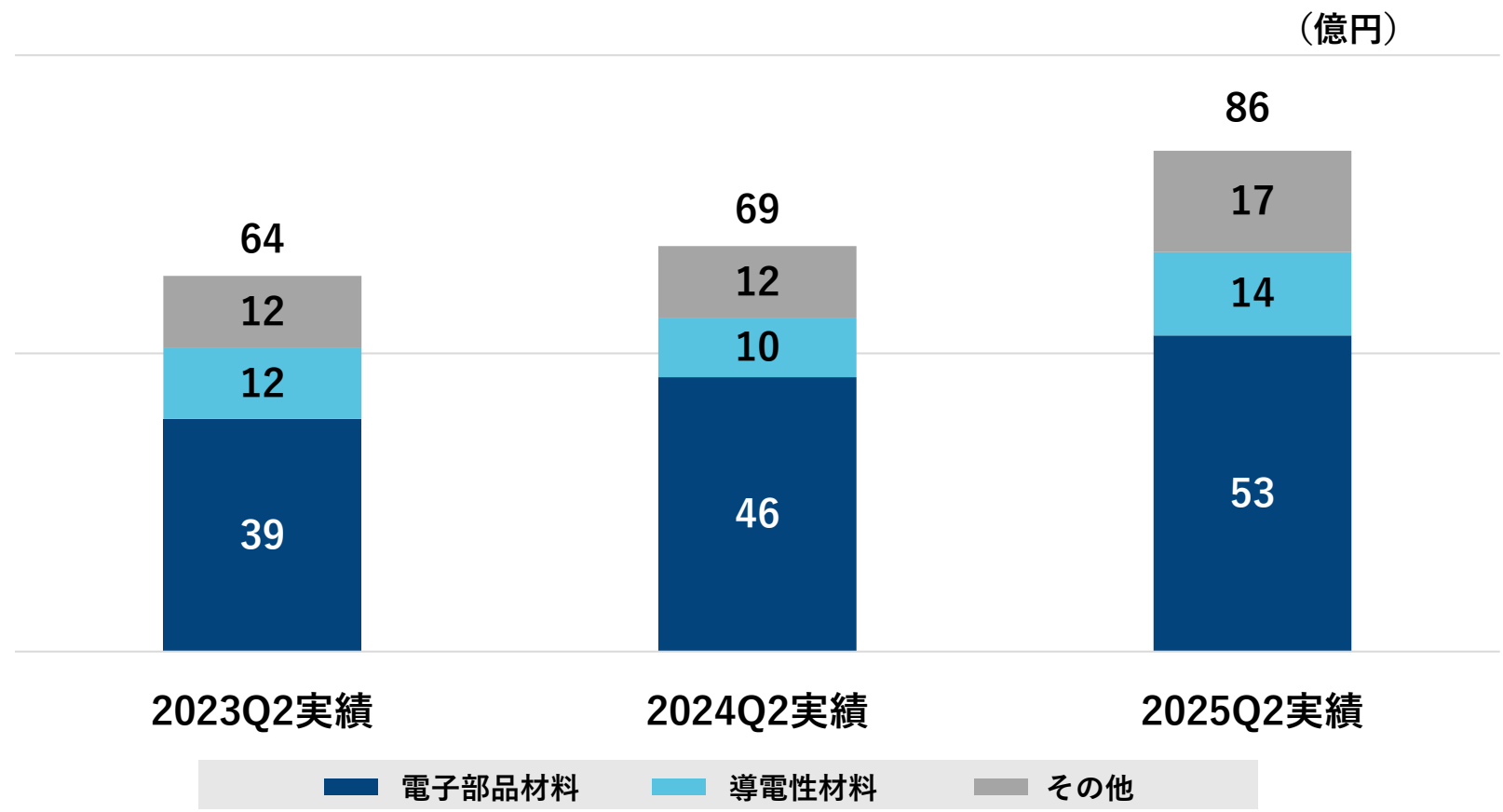
◆販売価格の維持とコスト削減に加え、昨年度実施した在庫適正化のためのアジア向け拡販による利益押し下げがなくなり、増益。



電子材料・機能性色材 材料別販売実績

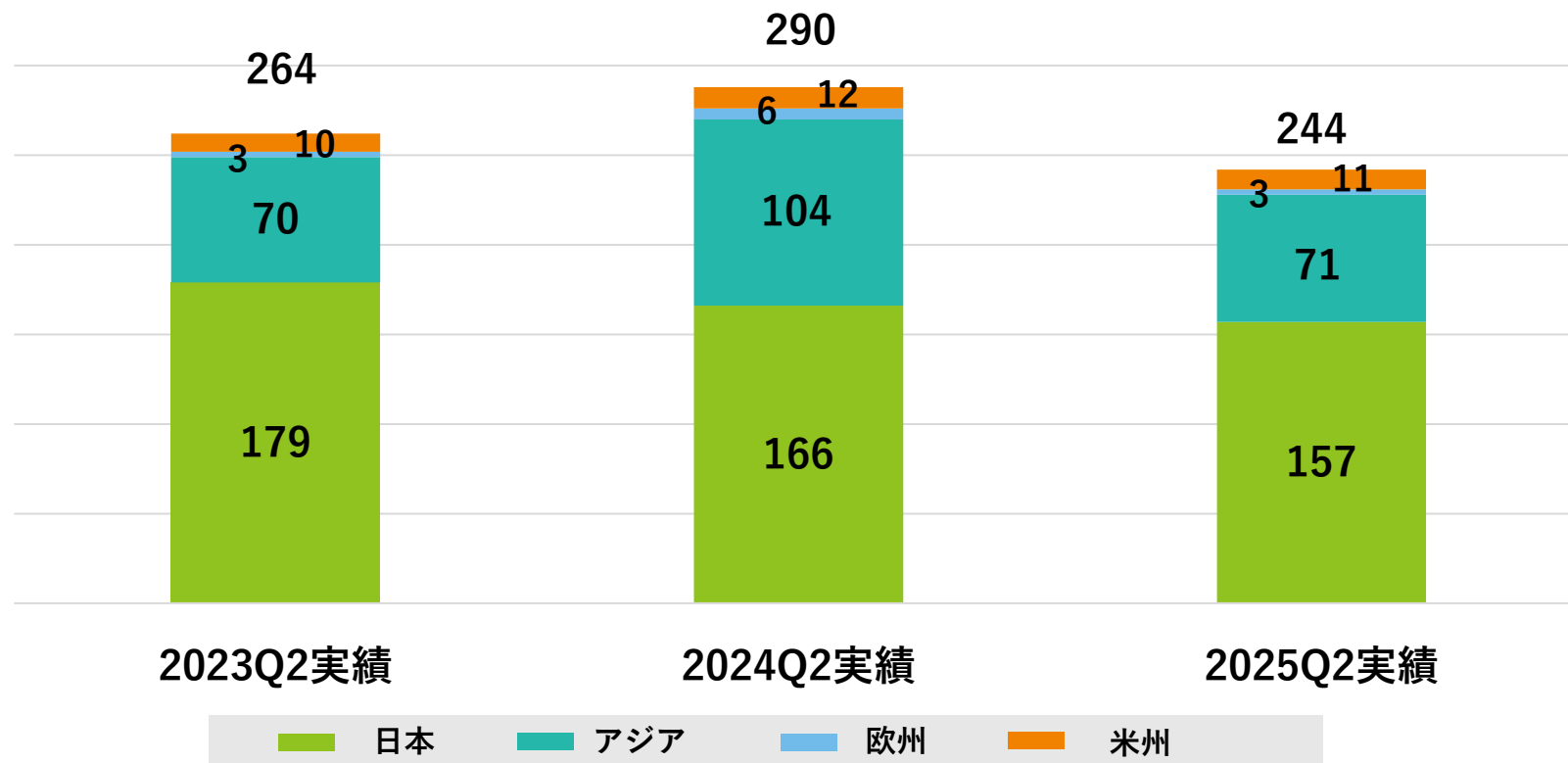
無機化学事業

- ◆電子材料は、国内向けは顧客での在庫消化が進み、販売が回復。
- ◆導電性材料は、海外向け販売が堅調に推移。



ファイナケミカル 地域別販売実績

- ◆酸化チタンは、国内は昨年から引き続き建築用途向けなどを中心に需要が低迷。アジアでも市況低迷が継続。
- ◆昨年実施した在庫適正化のために実施したアジア向け拡販がなくなったことから、販売が減少。



営業外損益・特別損益

◆為替差損益は、前期の為替差損11億円に対して
当期は為替差益4億円となり、大幅に損益が改善。

<営業外損益>

(億円)

科目	2024 第2四半期	2025 第2四半期	増減
金融収支	△0	△0	0
為替差損益	△11	4	16
持分法利益	12	10	△1
その他	△1	△3	△1
合計	△1	10	12

<特別損益>

(億円)

科目	2024 第2四半期	2025 第2四半期	増減
固定資産処分損	△1	△4	△2
減損損失	—	△3	△3
その他	0	0	△0
合計	△1	△7	△6

2025年9月末 貸借対照表

- ◆2025年9月末の総資産は、前年同期末比＋180億円の2,387億円。現預金が＋126億円、棚卸資産が△55億円、有形固定資産が＋95億円などによるもの。
- ◆借入金・社債は、前年同期末比＋74億円の691億円。
- ◆純資産は、利益剰余金が前年同期末比＋102億円などにより＋108億円の1,171億円。

(億円)

科目	2024年 9月末	2025年 9月末	増減
流動資産	1,547	1,627	79
現預金	262	389	126
売掛債権	386	389	3
棚卸資産	859	804	△55
その他	38	44	5
固定資産	659	760	101
有形固定資産	425	521	95
無形固定資産	21	19	△1
投資その他資産	212	220	7
資産合計	2,206	2,387	180

科目	2024年 9月末	2025年 9月末	増減
負債	1,142	1,215	72
買掛債務	243	253	10
借入金・社債	616	691	74
引当金	16	11	△4
退職給付に係る負債	120	99	△21
その他	146	160	13
純資産	1,063	1,171	108
株主資本	1,000	1,103	102
その他	63	68	5
負債・純資産合計	2,206	2,387	180

2025年9月末 キャッシュフロー計算書

◆中間純利益の増加などで営業キャッシュフローが202億円となり、フリー・キャッシュフローは156億円。

(億円)

	2024 (上期実績)	2025 (上期実績)	増減
営業キャッシュフロー	182	202	20
税金等調整前当期純利益	23	77	53
減価償却費及びその他償却費	25	22	△2
減損損失	0	3	3
運転資金等	145	108	△36
法人税等支払額	△12	△9	2
投資キャッシュフロー	△50	△46	4
固定資産の取得・売却	△38	△44	△6
投資有価証券の取得	△4	△0	4
投融資資金等	△8	△2	6
財務キャッシュフロー	△75	△21	54
借入金・社債増減等	△49	10	59
自己株式純増減額	△0	△0	△0
配当金支払額	△26	△32	△5
現金及び現金同等物に係る換算額	7	0	△6
現金及び現金同等物の増減額	62	135	72
現金及び現金同等物の期末残高	262	389	126

2025年度 業績予想

為替レート	2024 実績	2025 当初予想 (5月)	2025 修正予想 (11月)	2025 中計
(円/USD)	152.4	140.0	147.0	140.0
(円/EUR)	162.8	160.0	169.1	150.0

2025年度 業績予想

【対当初予想（5月）】

◆ 5月の当初予想と比較して、有機化学事業の農薬が海外の好調な販売が見込まれ、為替も米ドル、ユーロとも想定よりも円安に推移することが見込まれることから、増収、増益の見通し。

(億円)

	2024 実績	2025 当初予想 (5月)	2025 修正予想 (11月)	増減 修正予想 -前年実績	増減 修正予想 -当初予想	2025 中計
売上高	1,451	1,470	1,520	68	50	1,510
営業利益	104	150	160	55	10	167
経常利益	113	127	164	50	37	146
純利益	84	92	122	37	30	103

2025年度 業績予想（事業別売上高・営業利益）

【対当初予想（5月）】

（億円）

＜有機化学事業＞

- ◆ 農薬が引き続き欧州で殺菌剤と殺虫剤が好調に推移する見通し。
- ◆ 米州では殺虫剤が堅調に推移する見通し。
- ◆ 製造コストの改善も寄与し、増益の見込み。

＜無機化学事業＞

- ◆ 電子材料は国内外で堅調に推移する見通し。
- ◆ 機能性色材では導電性材料の拡販取り止めで減収見通し。
- ◆ ファインケミカル（酸化チタン）は厳しい事業環境が継続する見通し。
- ◆ 採算重視の販売と製造コスト削減で営業利益は当初予想並みを確保する見通し。

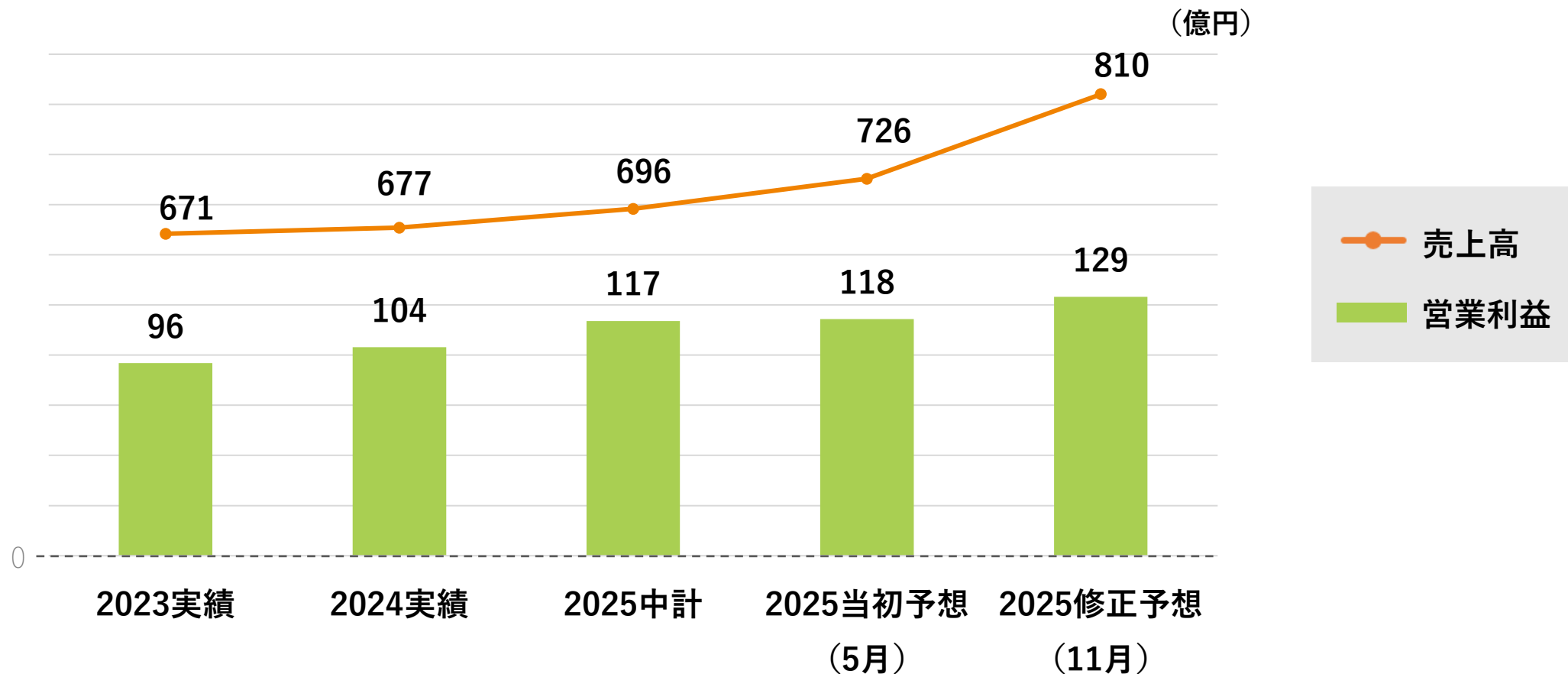
		2024 実績	2025 当初予想 （5月）	2025 修正予想 （11月）	増減 修正予想 -実績	増減 修正予想- 当初予想	2025 中計
有機化学 事業	売上高	677	726	810	132	83	696
	営業利益	104	118	129	24	10	117
無機化学 事業	売上高	732	710	675	△57	△34	787
	営業利益	△5	30	29	34	△0	49
その他	売上高	41	34	35	△6	△1	27
	営業利益	5	2	2	△3	△0	1
合計	売上高	1,451	1,470	1,520	68	50	1,510
	営業利益	104	150	160	55	10	167

	2023 実績	2024 実績	2025 当初予想 (5月)	2025 修正予想 (11月)	2025 中計
1株当たり当期純利益（円）	209.2	219.9	240.4	318.9	269.3
自己資本利益率（ROE）	7.9%	7.6%	7.9%	10.3%	9.1%
年間配当金（円/株）	70	85	100 (中間30、期末70)	100 (中間30、期末70)	100～105
配当性向	33.4%	38.6%	41.6%	31.4%	37.1～39.0%
連結株主資本配当率（DOE）	2.7%	3.1%	3.5%	3.4%	3.3～3.4%
総資産営業利益率（ROA）	5.4%	4.7%	6.4%	6.8%	7.2%
売上高営業利益率	8.3%	7.2%	10.2%	10.5%	11.1%
自己資本比率	47.3%	50.8%	49.5%	49.8%	48.7%

事業別 業績概要

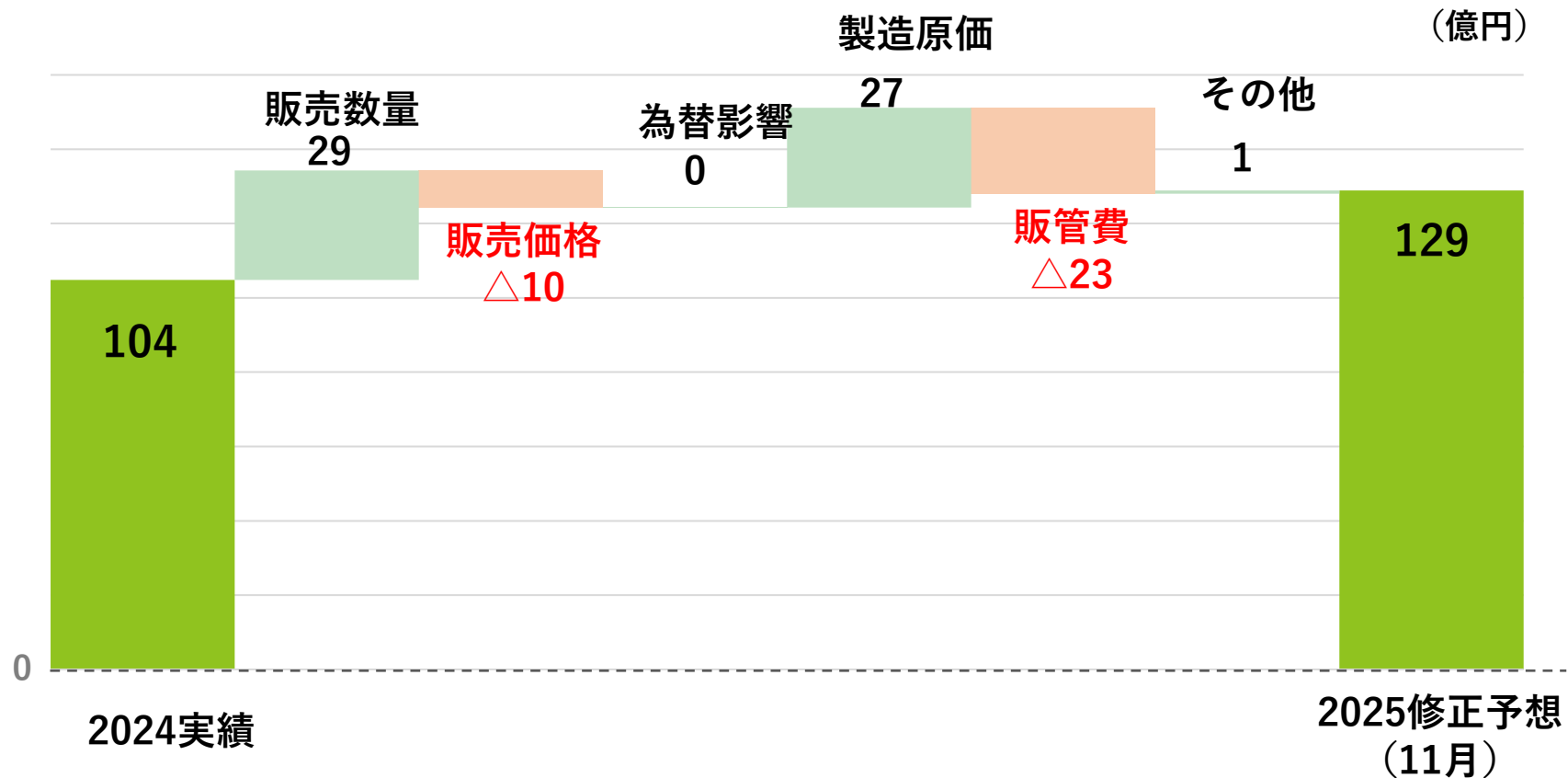
有機化学事業 業績計画

- ◆農薬は、海外販売が好調の見通し。特に欧州で殺菌剤、殺虫剤の販売が好調。
- ◆為替レートが想定より円安傾向であることがプラス要因。



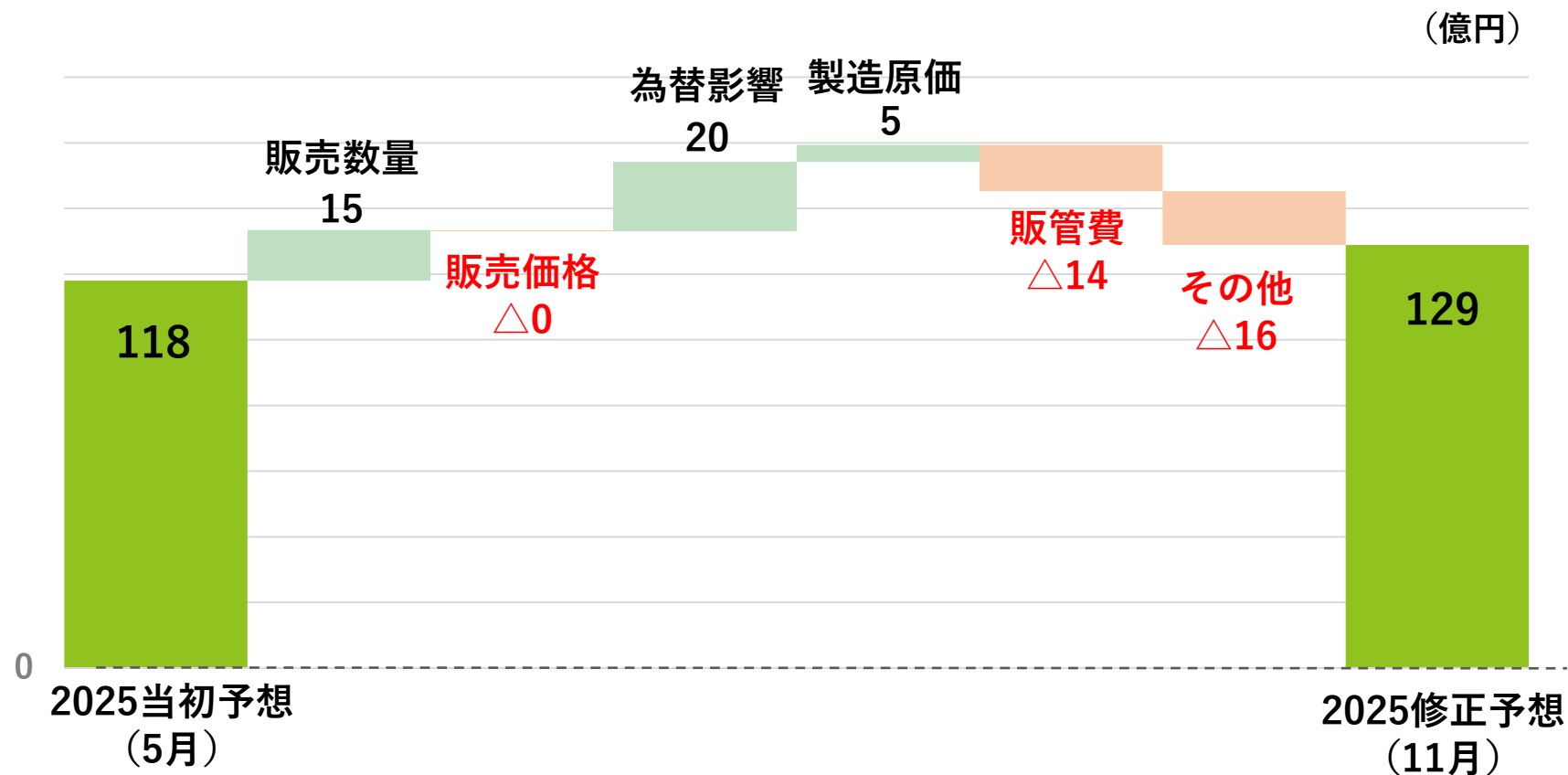
有機化学事業 営業利益増減要因（対前年）

◆欧州等での農薬販売好調と製造コスト改善が、ジェネリック品対策の値下げや研究開発費等の増加などの減益要因をカバーし、増益の見通し。



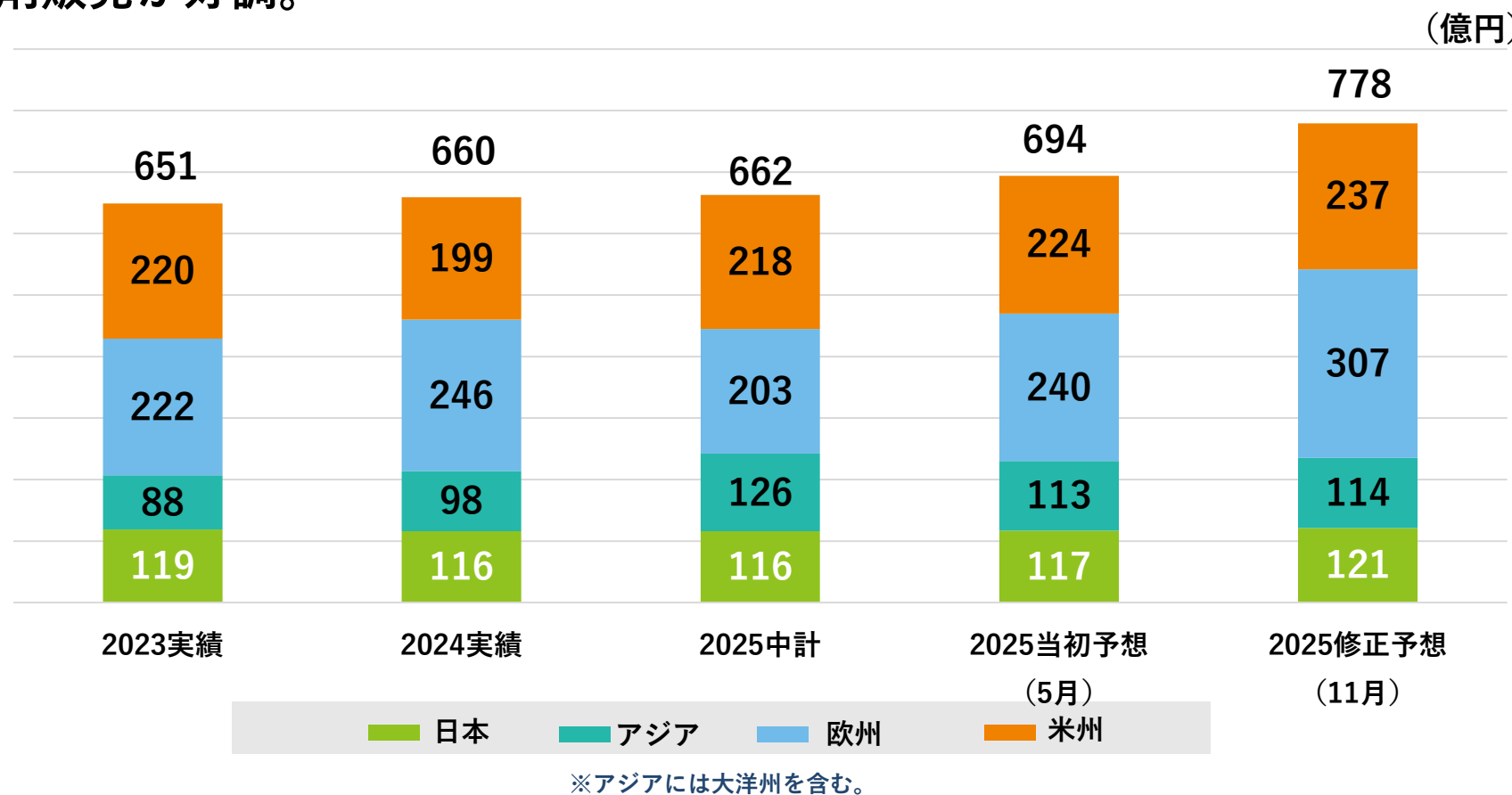
有機化学事業 営業利益増減要因（対当初予想）

◆欧州等での農薬販売好調に加え、中計に比べて円安による増益要因もあり、研究開発費等の増加による減益要因をカバーし、増益の見通し。



農薬 地域別販売計画

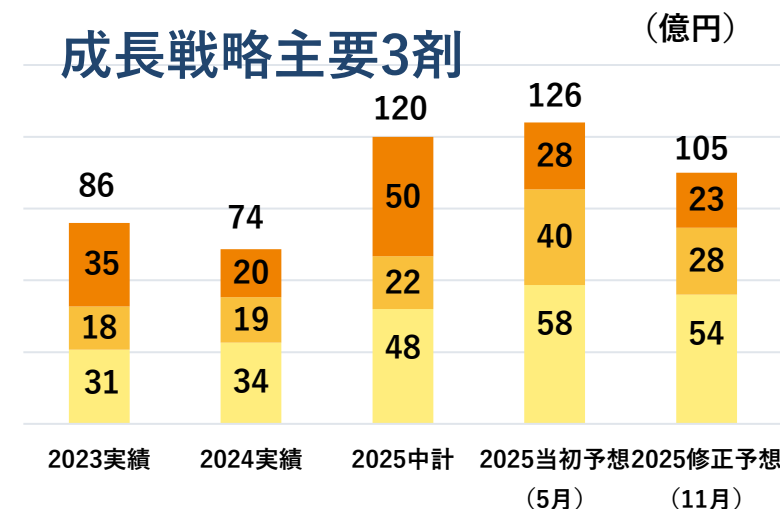
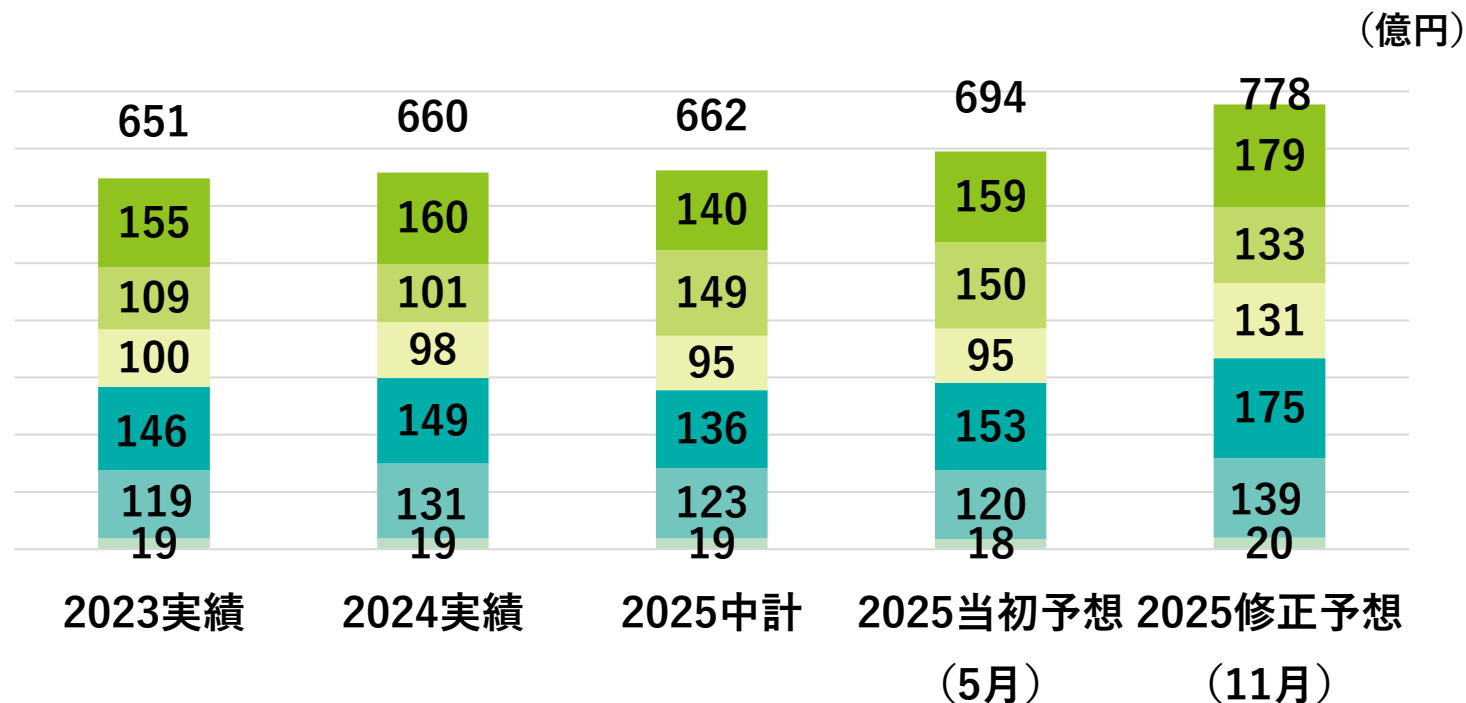
- ◆欧州は競合剤の減少などで殺菌剤の販売が増加。また、天候要因で害虫の発生が多く、殺虫剤販売も好調。
- ◆米州はブラジルでの除草剤の販売が薬害発生の影響で計画を下回るも、殺虫剤販売が好調。



農薬 剤別販売計画

◆殺菌剤（フルアジナム、シアゾファミド）は欧州で販売が好調。殺虫剤フロニカミドは欧州、米州で販売が好調。

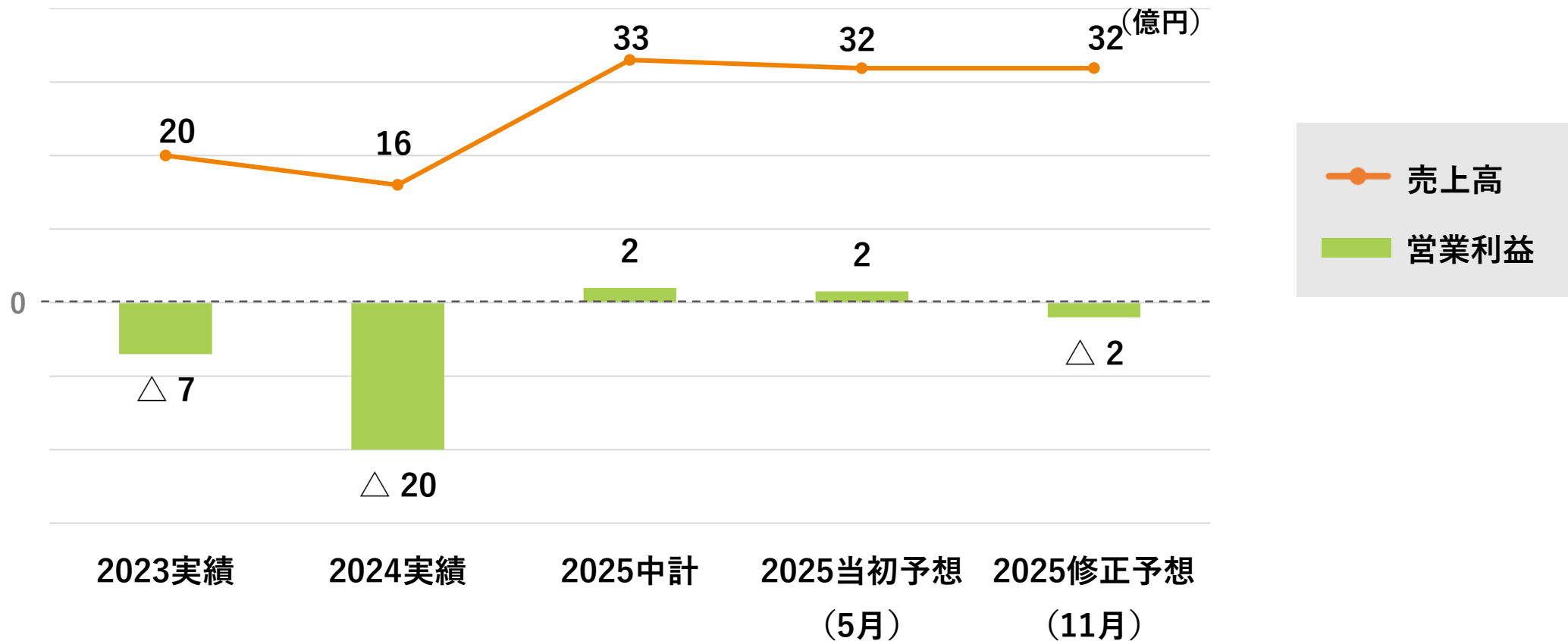
◆成長戦略主要3剤は、当初予想には届かないものの、前年度実績より増加。



トルピラレート シクラニリプロール
チアフェナシル

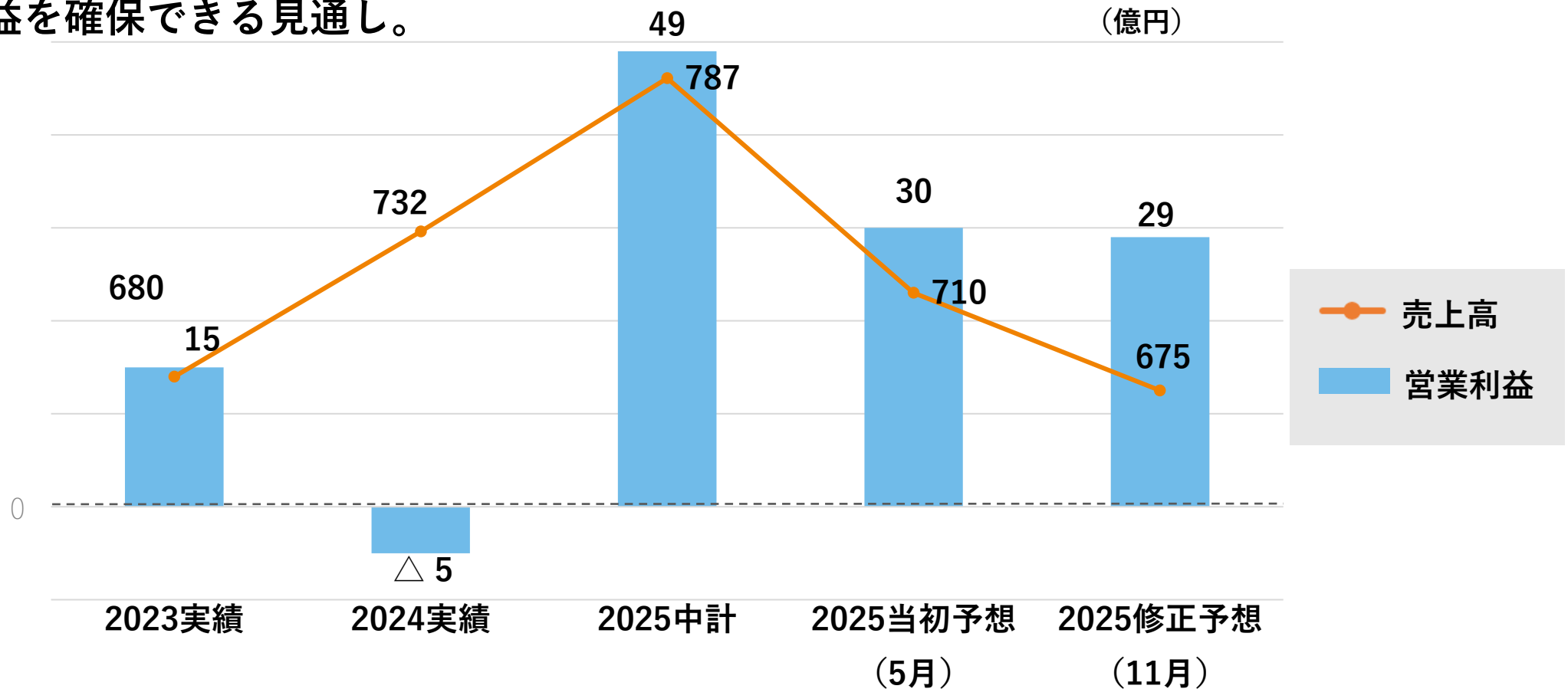
ヘルスケア 業績計画

◆前年度との比べて、売上は大幅に伸長したが、米国でのスケールアップ費用が増加したため、営業黒字化は2026年度へ持ち越しの見通し。



無機化学事業 業績計画

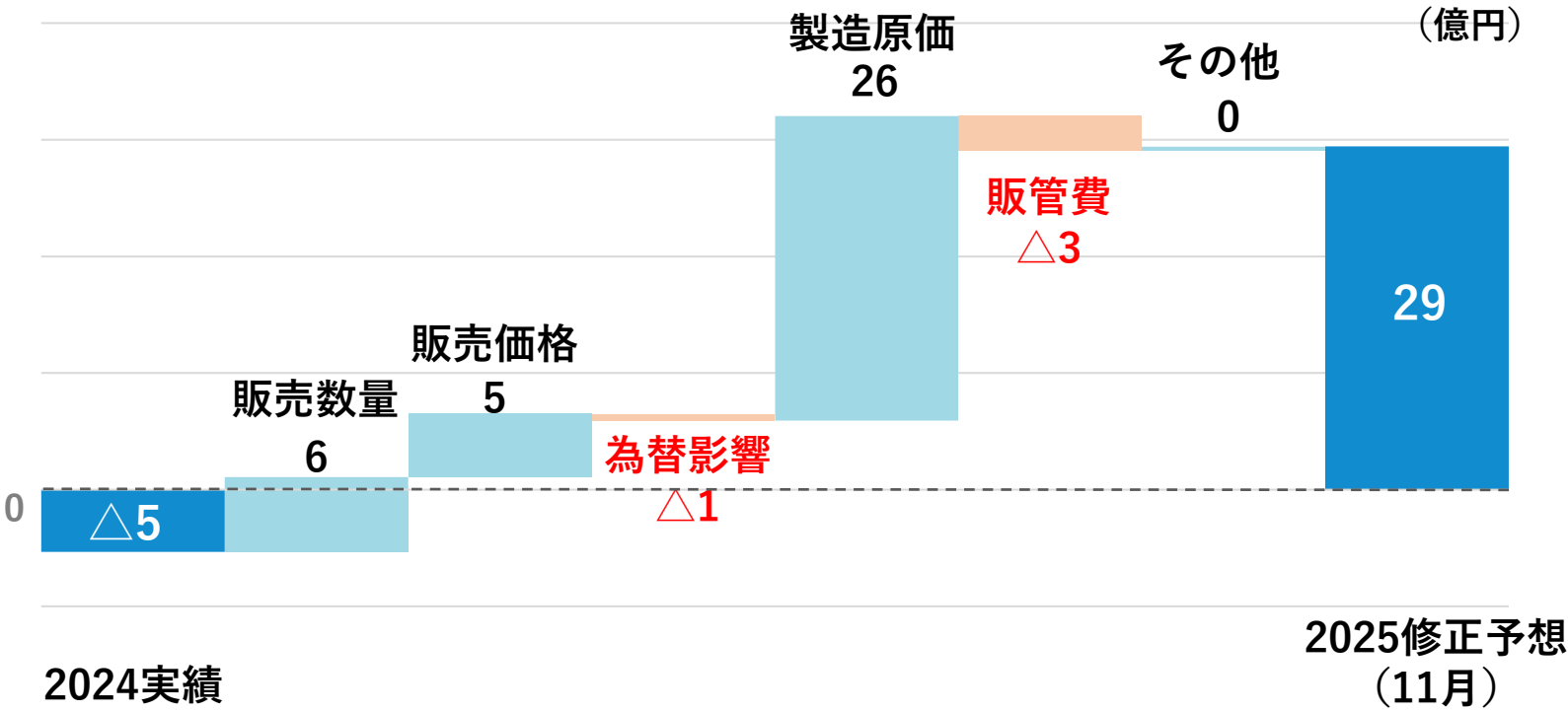
- ◆電子材料は当初予想並みの販売を見込むも、ファインケミカル（酸化チタン）は減収の見通し。
- ◆損益面では、コスト削減に加え、為替が円安に推移したことなどから当初予想並みの利益を確保できる見通し。



無機化学事業 営業利益増減要因（対前年）

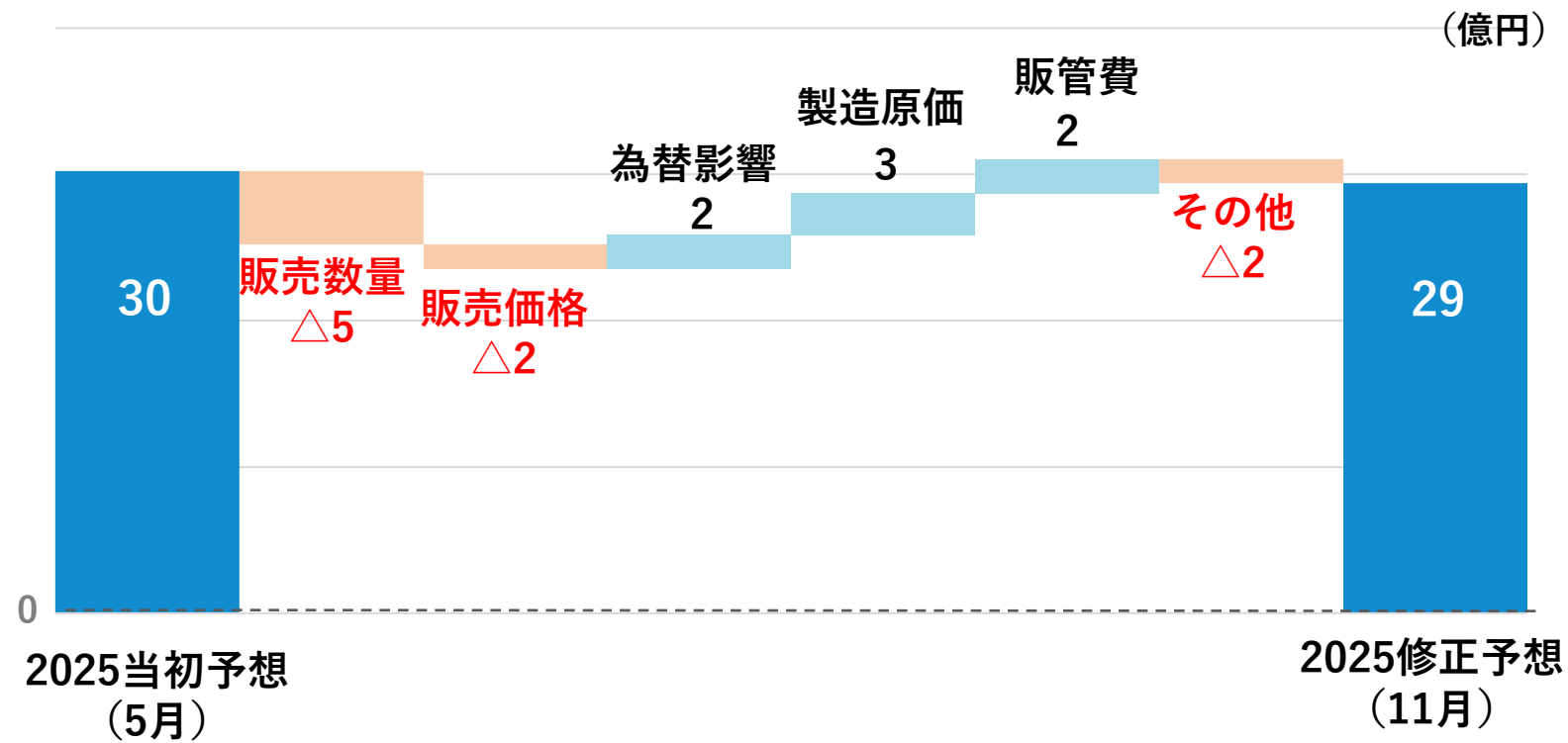
無機化学事業

◆ファインケミカル（酸化チタン）在庫の適正化を目的とした拡販がなくなったことから、前年度と比較して収益改善の見通し。



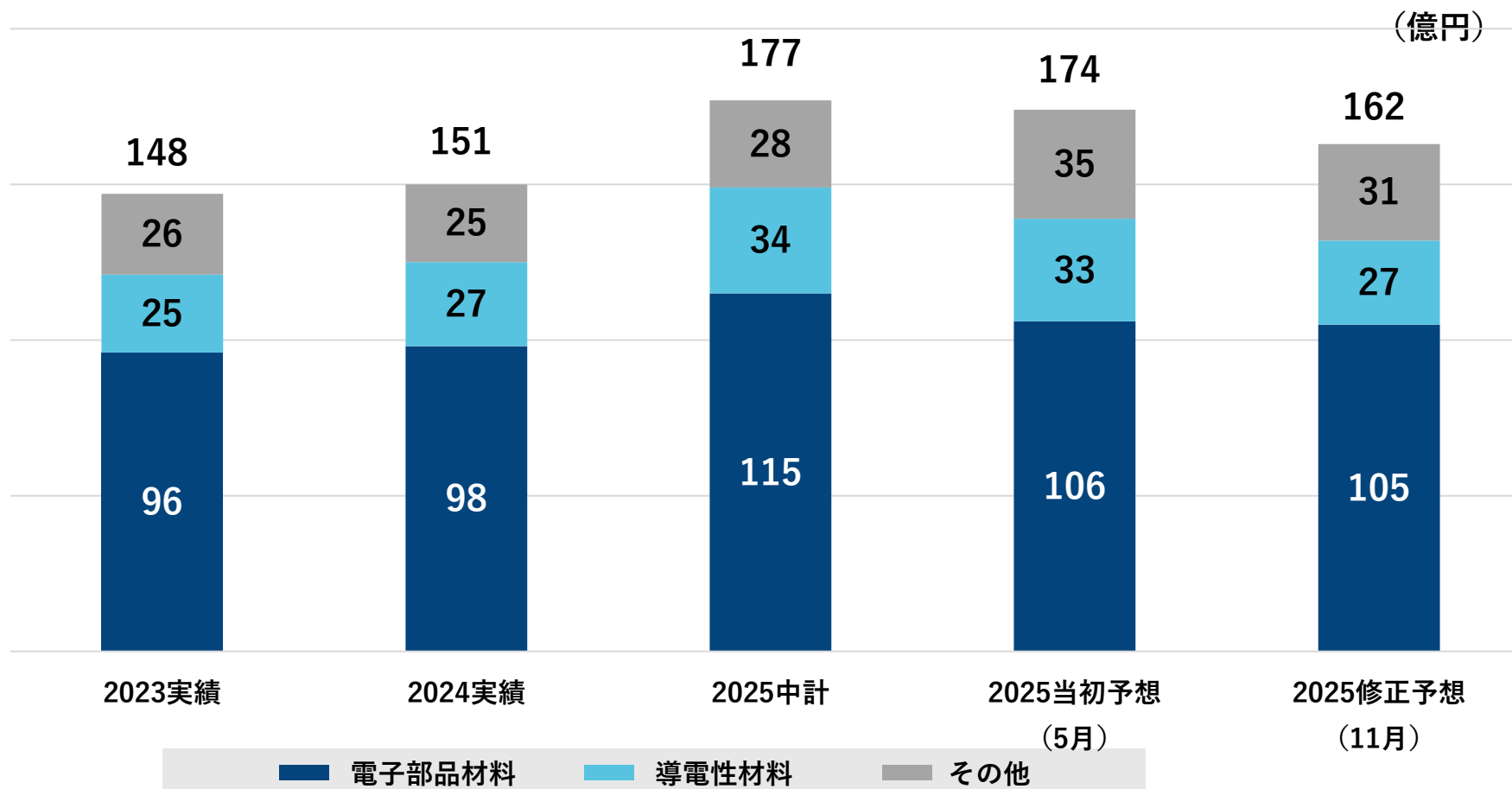
無機化学事業 営業利益増減要因（対当初予想）

◆ファインケミカル（酸化チタン）の国内外の市況低迷による販売減による減益要因があるものの、製造コスト改善に加え、為替が想定よりも円安に推移することが見込まれることから、ほぼ当初予想の利益を確保の見通し。



電子材料・機能性色材 材料別販売計画

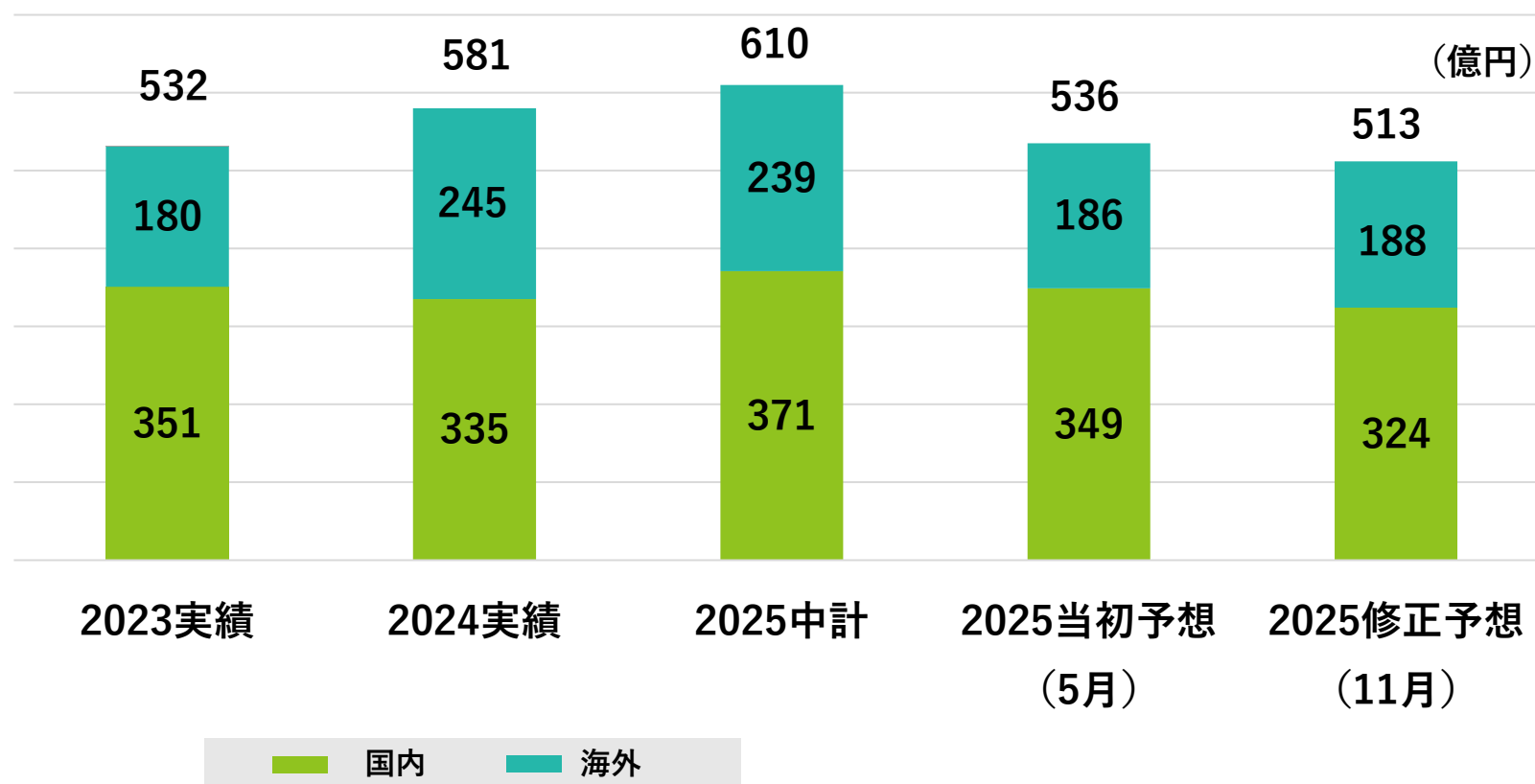
- ◆電子材料は国内外とも堅調で、ほぼ当初予想並みの見通し。
- ◆機能性色材では導電性材料で海外市況が厳しく、減収の見通し。



ファインケミカル 地域別販売計画

無機化学事業

- ◆酸化チタンは、国内販売は建築用途向けを中心に需要が低迷。加えて、競合他社との価格競争が厳しく、減収の見通し。
- ◆海外販売についてもアジア向けの市況低迷が継続する見通し。

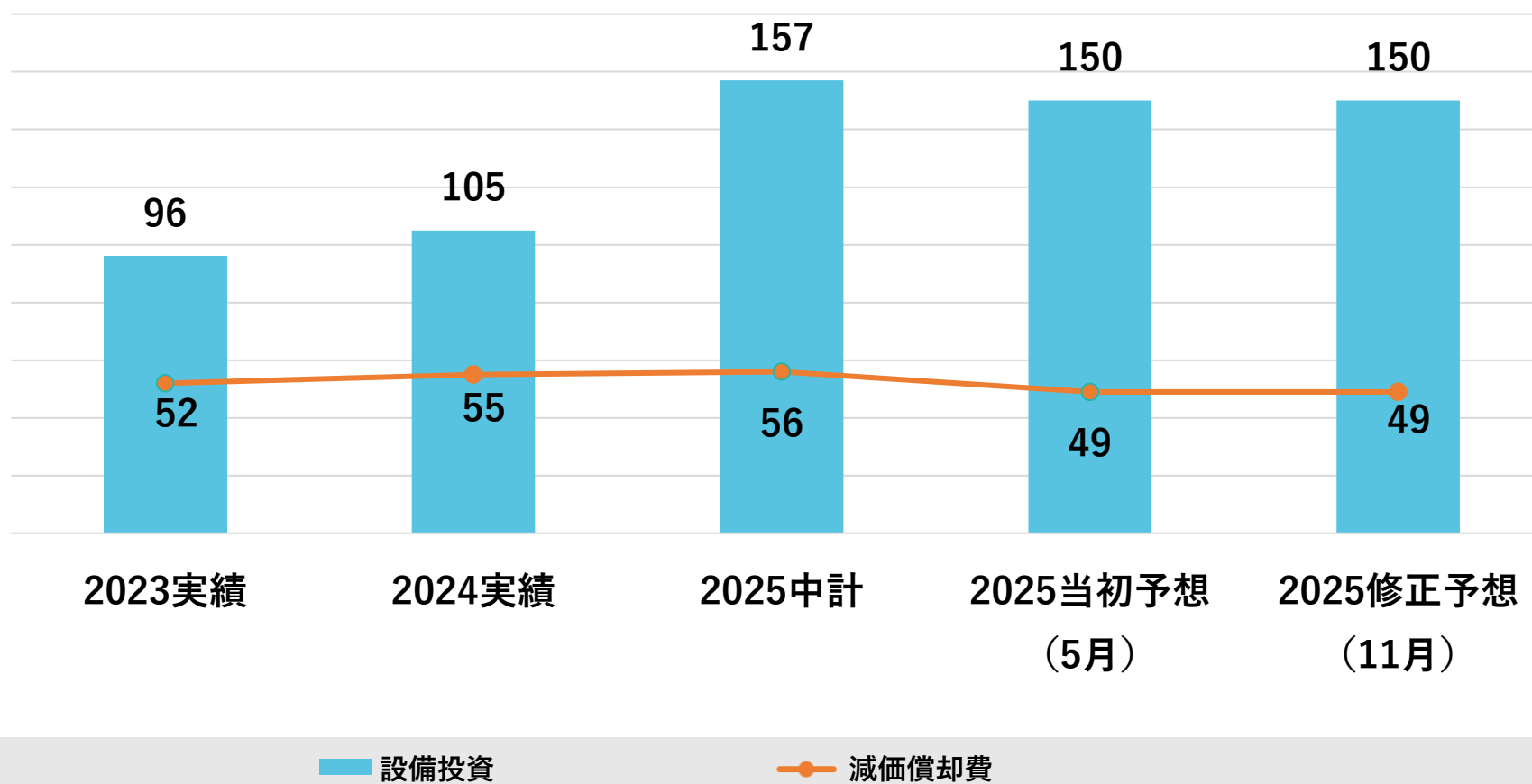


付属資料

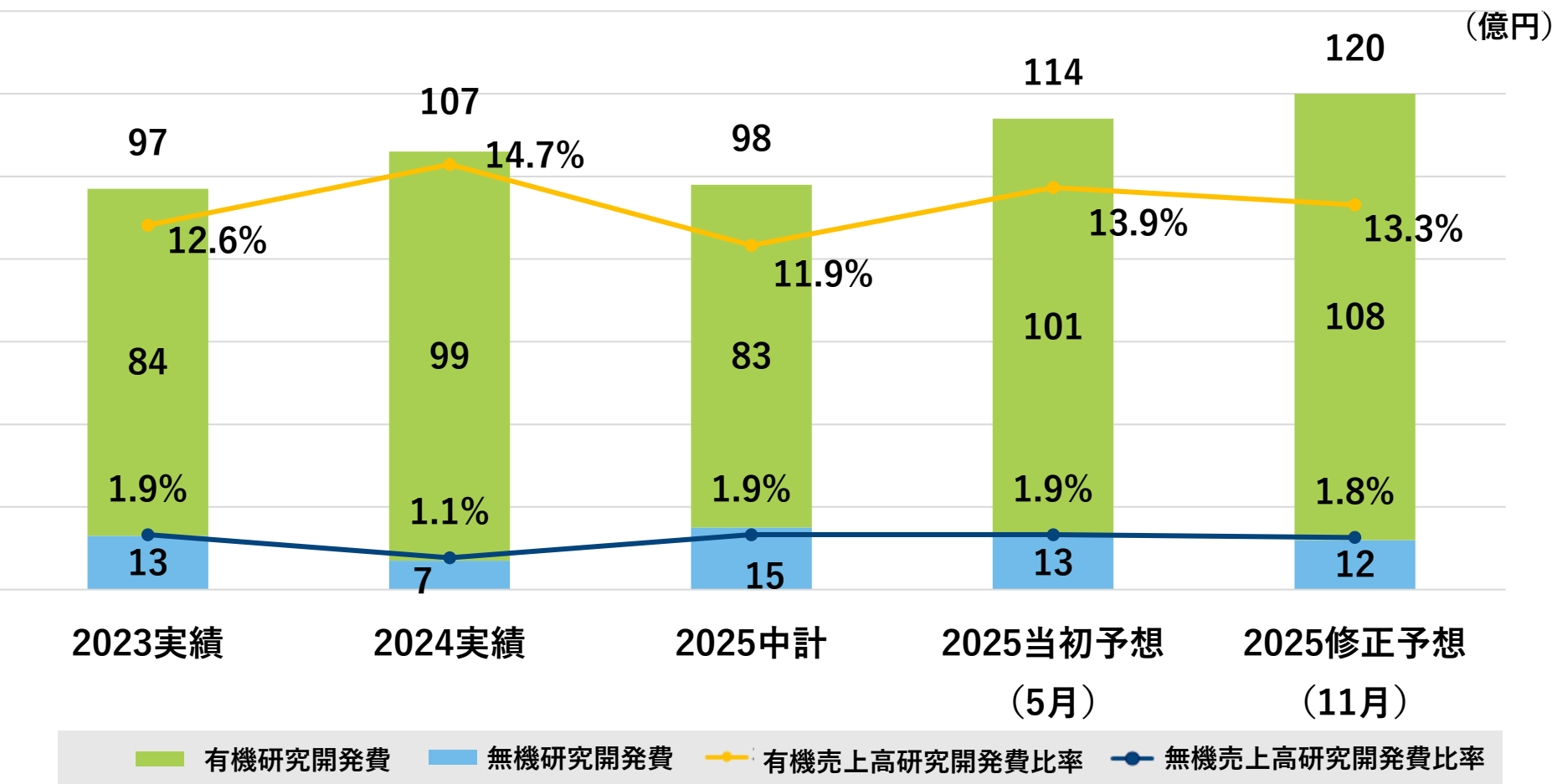
設備投資・減価償却費

- ◆ひょうご小野研究センターは、本年12月より稼働開始予定。
子会社のMFマテリアル(株)延岡工場Ⅱ期工事は計画通り推進中。

(億円)

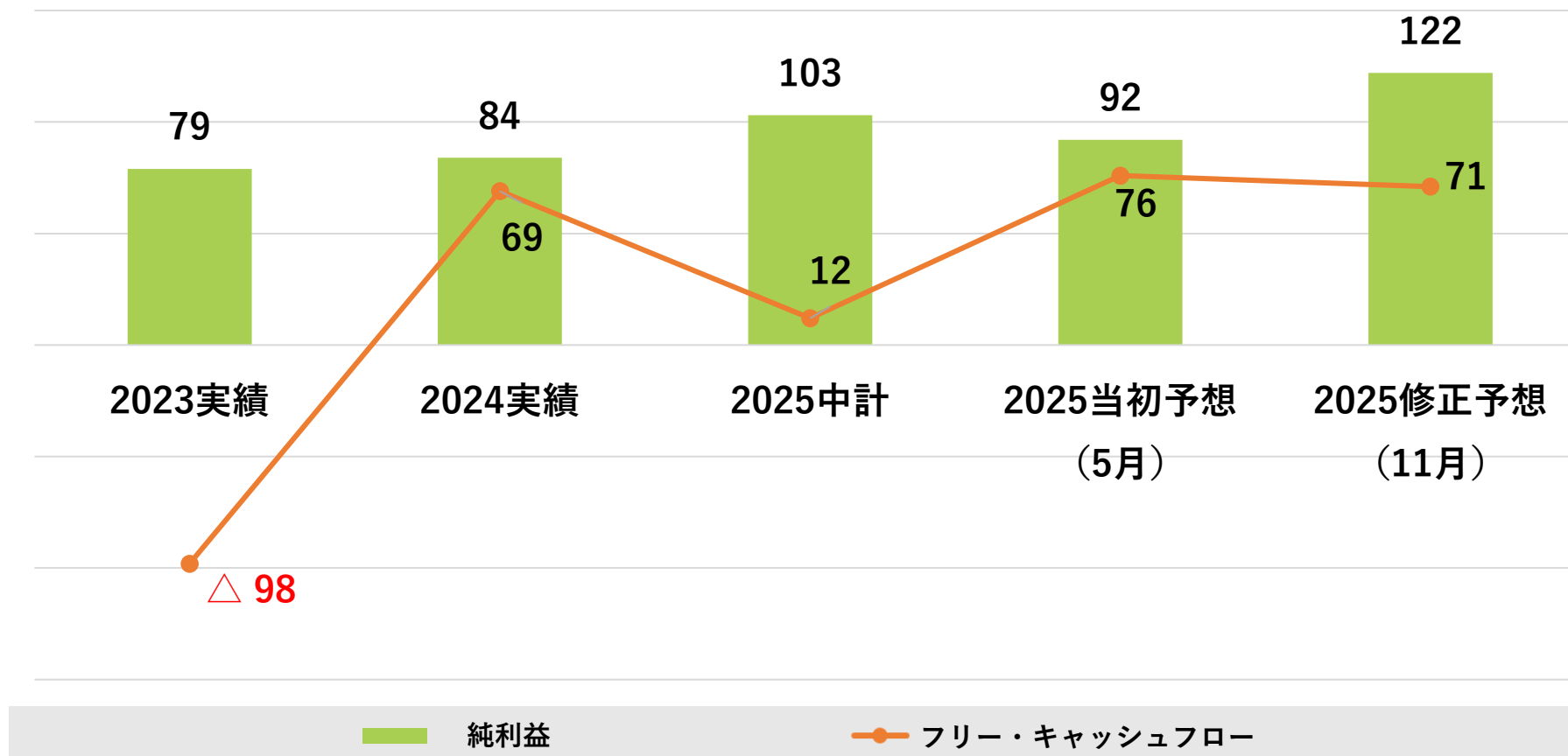


◆農薬の研究開発費は、欧州での登録維持のための費用が増加したことに加え、当初想定した為替レートよりも米ドル、ユーロとも円安を見込むことから、費用増の見通し。

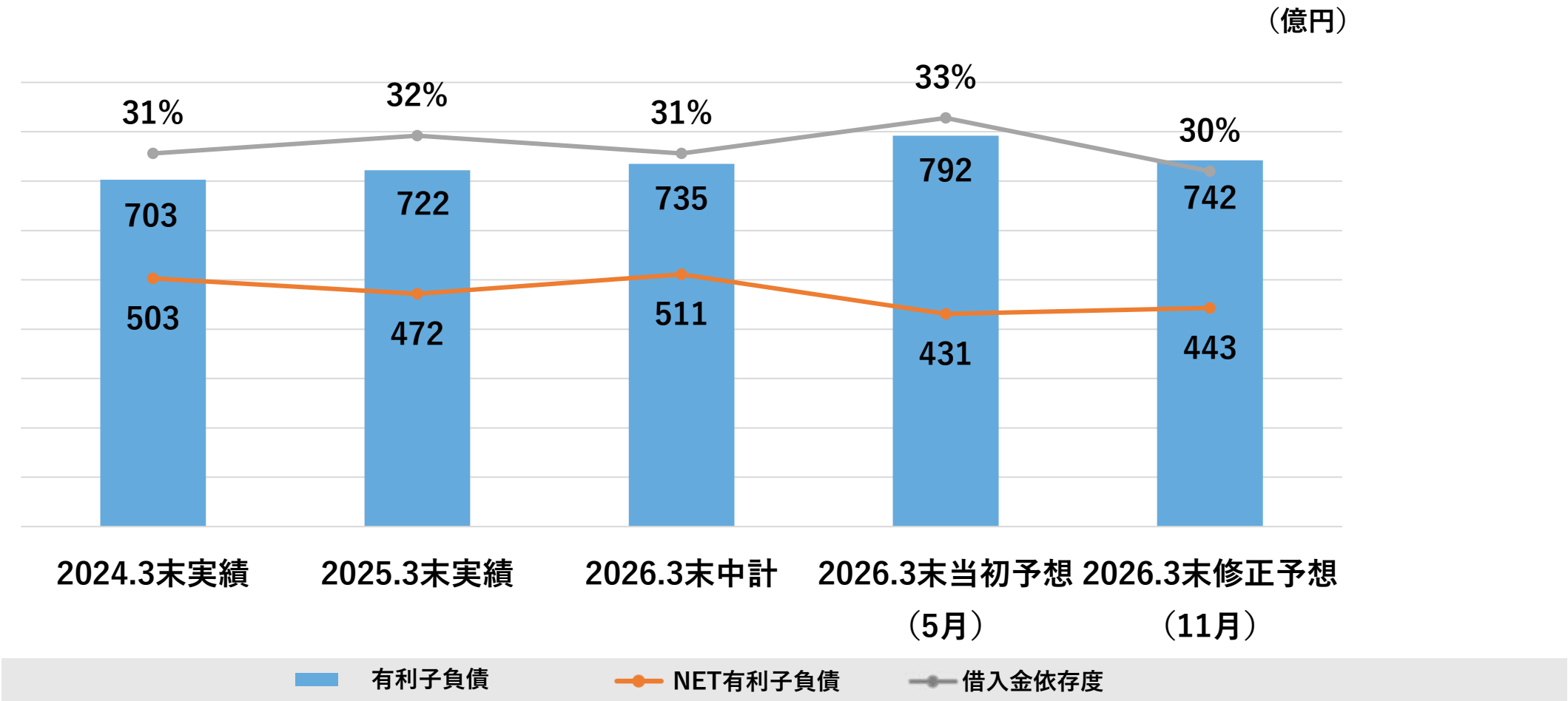


フリー・キャッシュフロー

(億円)



有利子負債残高



完

- ・将来見通しに関わる記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料には、公表時点での将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。日本及び海外の経済情勢・需要動向・競合状況・為替の変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があることをご承知おきください。